Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W011	中山　智晴	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル	ライフスタイルの変革しか気候変動や生物多様性の劣化を改善する方法はないと考える。そのためには、啓蒙・啓発だけによるのではなく、政策により持続的な生活を営む一定の縛りも必要であると考える。
W020	平田　浩二	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	昨今の豪雨被害や竜巻の発生など，日本含む世界をめぐる環境は極端化が進んでいると感じている。環境問題に対する各国首脳（特に米国，中国など）の思惑もあり，環境問題までが地球（世界）レベルで論じられず，国益を求める方向へ進んでいることは大変残念なことだと考えている。
W028	渡邉　泉	アジア	日本	大学研究機関	40代	2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	人資源的劣化・生物多様性の危機は食・水から起きる。汚染は、社会認識以上に深刻であると考える。疫学的な包括的究明が必要だが、行われていない。どこから手をつけて良いかも分からない（エコチルのような施策をもっと行うべき）。根本の解決には社会・経済・政策に加えライフスタイルの変化も必要だが、行われる気配はあまりしない。社会への啓蒙・教育が重要。
W029	安井　至	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	気候変動と生物圏の崩壊が、人類の終末に大きく影響しているという理解が、まだまだ一般的な理解になっていない。アンケートの選択肢には無いが、今後の世界人口の増大による金属資源の枯渇速度の拡大、さらには、食糧生産の必要性の増大、などが地球の持続性に負の影響を与えることが確実であるにも関わらず、政治・経済をどのように変えるか、といった議論が一般化していない。
W035	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	中米経済対立、北朝鮮問題、トランプ政権による中東政策、ブレグジットによるＥＵ混乱、日本における高齢化問題等が環境問題に対する注意力を分散させている感がある。ひいては問題の単純化による表面的な対策（電気自動車の普及や太陽光発電等に代表される）のみが注目され、複雑な社会問題としての環境問題に立ち向かうという議論が希薄になっているように思う。状況は一向に好転していないのに、何となく快方に向かっていると考える風潮にも警戒すべき。
W045	[-]	アジア	日本	その他	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	かつての汚染物質やオゾン層の問題のように人体の健康に直結する環境問題は取り組みが進みやすいが、二酸化炭素排出や生物多様性減少のように影響が見えにくいものは後回しにされやすい。一般の意識の高まりを待たず、意図しないでも対策されるような社会体制が必要。また対策には再生エネルギーより省エネ、森林再生より消費抑制、リサイクルよりリデュース、といった出口より入口の対策が肝要です。永遠の経済成長など科学的にあり得ない状態であるということを直視すべき。
W048	[-]	アジア	日本	大学研究機関	30代	6.人口	人口増加に起因する諸問題が全ての「地球環境の変化」に影響を及ぼしていると考えられます。ライフスタイルの変化や持続可能な社会システムの構築が求められています。
W055	[-]	アジア	日本	その他	30代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	気候変動を要因とした生物圏保全性、発展途上国の食料問題、干ばつなどの地球環境問題は、一部の利己主義的な人々によって危機的な状況からの脱出が見えない状況にある。
W073	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	もっと具体的な指針や計画を一般の人々の意識に植え付けることをしないと、いくらニュースで取り上げても、今までの生活態度に変化を及ぼすことは出来ないと感じる。早急に（大至急）、一般の人、国民の一人一人がしっかり環境のこと、気候変動のことを考え、改善する方向に行動しないと、取り返しのつかないことになってしまわないかとても不安を感じる。
W080	[-]	アジア	日本	中央政府	60代	1.気候変動	炭素中立に向けて、全世界が大胆な取り組みを早急に進めることが必要。このために、日本が先駆的な取り組みを行い、ピンチをチャンスに変えることが必要。
W085	齊藤　隆	アジア	日本	大学研究機関	60代	6.人口	地球環境問題の根本は，人間が自然に与える負荷が大きく，また，その負荷量を人間がコントロールできない状態にあることにあると考える．だから，問題を解決するためには環境負荷量を人間が制限できる仕組みを作り，負荷量を下げなくてはならない．この取り組みは様々なレベルに「我慢」を強いることなので，その実現は容易ではない．「我慢」を受け入れるにはその理念を深く理解することが不可欠なので，教育・人材育成が重要だと考える．

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W086	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル	今後２０～３０年間に新たなエネルギー技術の開発が急務であると考える。これは、政府案のエネルギーミックスでは、今後２０年間に原発の依存度を２０～２５％へするとされているが、実現性に無理があると思われる。また、安定した電力供給のために、再生可能エネルギーでは、地熱、バイオマスの活用を積極的に行う必要がある。また、水素社会へ向けた政府の積極的な取り組みを今後も続けていくことが望まれる。
W092	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	経済活力と環境保護の両立が実現する社会へ、また多様性と調和が共存する社会へ、意識の改革は着実に進んでいるように思う。
W095	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性)	遺伝子操作作物の汎用で、確実に生物多様性が失われている。本来昆虫などの動物が介在していた作物がこれに依存しない環境でつくられつつあり、近い将来、人間に与える影響が心配される。本来、人間が依存する食物は益虫も害虫も存在するなかでつくられるべきものである。
W104	[-]	アジア	日本	企業	40代	6.人口 8.ライフスタイル	私が地球環境問題との関連で最も危惧しているのは、人口の爆発的な増加です。１９００年に全世界でおよそ１６億人だった人口は、２０１１年に７０億人を突破し、２０５０年には９８億人を超えるだろうと予測されています。人間が生きていくためには必ず、食糧や水を消費し、化石燃料を使用し、ＣＯ２を排出します。人間が増えればそれだけ、地球環境への負荷もかかることになり、地球の扶養力を表す指標「エコロジカル・フットプリント」によれば、１９７０年頃には地球１個でかろうじて人間活動をまかなえていたものの、２０５０年には地球３個分の扶養力が必要と試算されています。 この増え続ける人口を抱えて人間活動を継続していくためには、イノベーションによる資源・エネルギーのさらなる利用効率の向上とともに、人間ひとりひとりが考え方を変えることによるライフスタイルの転換が必要であると考えます。その意味で、最近のＳＤＧｓの社会への着実な浸透や、サブスクリプションの進展による「所有から利用への転換」などは、少しずつですが好ましい方向へ進んでいるのではないか、と捉えています。
W109	西田　哲明	アジア	日本	大学研究機関	60代	4.生物化学フロー(環境汚染)	広い意味での環境汚染問題はまだ解決には程遠いと思われる。とりわけ、我が国の放射線汚染問題は深刻である。除染や放射性廃棄物の安全かつ迅速な処理が切望される。東アジアにおける排ガスや微粒子による環境(大気)汚染も深刻である。環境問題の本質な解決には教育や啓蒙活動が必須であるが、政治的な問題や経済活動が密接に絡んでおり、厄介である。それでもじっくり環境汚染の原因をはっきりさせて各国（地域）およびグローバルな視点から地道に解決させるしかないと思われる。
W112	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	9.社会、経済と環境	近年に至り、ようやく海洋プラスチックの問題が社会的に注目され、国際的な取組みもなされ始めた。この問題の解決に向けた国際社会のより一層の取組みが必要である。
W114	石田　秀輝	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境劣化の中でも、気候変動、生物多様性の劣化さらには海洋流出プラスチックの問題は極めて深刻である。その中でも、気候変動に関してはパリ協定以降、各国が前向きに対応していることは評価できるが、現実的には温室効果ガスの削減が顕著であるという傾向はみられていない。また、生物多様性の劣化に関しては、ほとんど対応できていないばかりか、劣化は加速している状態である。これらの傾向を見るに、現在の対応が対処療法的であり、あるいは従来型の経済優先施策の中での環境対応であり本質的な問題への実質的な対応にはなっていないことが危惧される。 地球環境問題とは、そもそも人間活動の肥大化(物質的利便性・快適性の追求）によって生じたものであり、この人間活動の肥大化を如何に停止縮小すべきかという、それも心豊かに暮らしながらという視点に立つ必要がある。すなわち、物質的な豊かさから、精神的な豊かさを煽るテクノロジーやサービスの創生が必要であり、それを通して地球環境問題も解決するというスタンスが極めて重要で求められているのではないかと思う。 残念ながら、このような視点でのテクノロジーやサービスの開発は未だ希薄であり、早急に対応する必要がある。
W115	毛利　衛	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル	日本が率先して課題解決への貢献ができる科学技術をビジネスとして世界へ貢献することを、国がもっと積極的にアピールすることが必要。例；海洋投棄プラスチックへの植物由来生分解性プラスチックへの変換。温暖化ガスの低排出技術。 これからAI導入に伴うライフスタイルの変化をポジティブにとらえる意識、例えば高齢化社会、地球温暖化および生物多様性変化への客観的データをもとに科学的に議論する国連への働きかけなど、日本がグローバルリーダーとなることへの積極的取組を推進するのに、ブループラネット賞はもっと貢献できる。
W116	[-]	アジア	日本	その他	40代	1.気候変動	パリ協定の内容を市民レベルに落とす活動をもっと積極的にやるべきでは。 SDGｓはそのあたり、かなり進んでいるように感じます。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W118	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	SDGsとの関わりも含めて生物多様性保全に焦点が当てられることが増えてきてはいるが、経済分野、特に気候変動資金への安易な依存傾向が見られ、生物多様性保全の特定の一部分にしか対応できていない。
W126	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	比較的長い時間スケールの変化であり，更に因果関係の複雑な（非線形）問題ということで，一部の人を除くと，なかなか問題を実感したり，政策を評価・決定する事が難しいと感じる．地道でも義務教育から「科学的な考え方」を学び，考える機会を増やしていくことが大切.
W130	坂田　裕輔	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 8.ライフスタイル	一般の人々は環境問題に慣れてしまっている気がします。 そろそろ政策的に対応して、意識しなくても社会が改善するような仕組みが必要です。
W137	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	長期にわたる人間活動がもたらす気候変動の超・長期の社会への影響、見えない化学物質や電磁波の空間密度の増加や人体への長期暴露による健康影響などに対して、現在の社会・経済システムが対応できていない。持続可能な発展が提唱された原点に立ち戻り、世代を超えた社会経済発展のあり方について従来のディシプリンやセクターを越えた議論と取り組みが求められている。
W140	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	気候変動に関しての人々の意識は高まってきていると感じるが、意識以外の政策や具体的な活動は進んでいない。
W142	戸田　浩人	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル	昨年度の繰り返しになるが、陸域の特に熱帯林は依然として毎年膨大な面積が消失している。森林破壊は地域の防災や水資源の確保といった直接的なグリーンインフラとしての機能低下ばかりでなく、生物資源としての生物多様性保全や地球規模での水や大気の大循環に影響を及ぼすことになる。日本などの先進国は、都市生活を維持するために持続不可能な化石燃料など地下資源に基づくエネルギーの大量消費が止まらず、食糧の生産量を確保するための大規模な農業・畜産業、その土地利用を維持するための過剰かつ頻繁な化学物質や窒素・リンといった養分の利用は、減少する森林生態系など自然の浄化機能を越え、河川・湖沼・沿岸域の汚染をもたらしている。一方、日本をトップランナーとして高齢化と人口減少社会を迎え、中山間地域ばかりか都市に近い里山ですら管理ができない状況がみられ、持続可能な森林資源の放棄、生態系による防災・減災機能の低下、野生動物と人間との軋轢、里山等の人為があって維持される生物多様性の低下など、自然資源管理の方法と担い手を再構築しなければならない。拡大・拡散する方向を続けるのではなく、コンパクトな食糧・エネルギー生産を自然資源の持続的利用・管理と結びつけ、よりスマートでエネルギー消費を抑えたライフスタイルや農林業をめざすべきである。
W144	藤村　コノエ	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境 10.その他	世界的には気候変動に関する取組は進んでいると思うが、日本国内では、ほとんど進んでいない。特に人々の意識や政策は他国に比べて、かなり遅れている。企業も縛りのないSDGsには熱心に取り組んでいるが、気候変動には後ろ向きな姿勢であり、経済重視の政権はそうした方面の意見ばかり重視し、政府も本質的な取組には至っていないように感じる。気象災害が顕在化しているにもかかわらず、誰も責任をとろうとせず、将来世代にツケを残すばかりである。 またこうしたことに関わる人材の育成が不十分である。気候変動問題に対応するには、広範な知識と視野、科学的かつ哲学的な思考も求められるが、現在の教育はこれに対応できる体制になっていない上に、教育界そして社会全体がそうした必要性を感じていないように思える。 人が、政治、経済、技術そして社会を司るにもかかわらず、短期的成果を求めるばかりで中長期的視点で人を育てていく真の教育が疎かにされているようで、国の将来が不安である。
W004	湯本　貴和	アジア	日本	大学研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	熱帯雨林での原生林の減少には歯止めがかかっていないために生物多様性の危機が進行している。原生林と、バイオ燃料や食糧生産との土地利用の競合が進んでいる。 SDGsについては、それぞれの企業活動や研究活動で「いいとこどり」がはびこっていて、ひとつの項目で貢献しているからという免罪符的に使われているのは、そもそもSDGsの精神とは真逆の考え方である。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W005	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 5.水資源 6.人口 7.食糧	人口が増えること、また、技術が進捗して行くに従いCO2をはじめとした気候温暖化ガスが大気中に排出され、最終的には地球規模での異変が起こってきている。 そのことにより、海水温上昇も引き起こされ、生命の基盤である海洋生物が今まで通り生き抜くことが難しくなってきており（珊瑚礁の白化現象など）食料についても今後大きな課題となってくることが懸念される。
W006	窪田　順平	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	日本において、気候変動の変化が降水の変化などとして明確に表れているにも関わらず、必ずしも人々の意識として明確にとらえられておらず、また特に日本においては政策や法制度に明確に反映されていないことについて、大変危機を感じている。世界的に見れば、対処が進みつつあることと比べてその差が顕著になっていると感じる。
W007	松田　裕之	アジア	日本	大学研究機関	60代	3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 9.社会、経済と環境 10.その他	沿岸域および河川の生態系の変化が懸念されます。
W009	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	政令指定都市や中核都市などの行政の意識は高く、地方自治での施策は確実に進んでいるが、地方の中小自治体では全く無関心と言わざるを得ないと現場で感じている。例えば都構想なるものは声高に叫び権力闘争をしているが、その中には持続可能な社会への展望は全く描かれていない。
W010	[-]	アジア	日本	中央政府	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	気候変動問題と生物多様性保全とは極めて密接に関連しており，愛知目標の多くが未達成どころか，かえって悪化し，多くの生物が絶滅の危機に瀕していることを我々は再認識する必要があると考えます。２０２０年を前に，大国でありながら「途上国」と称する国々や米国をしっかり巻き込み，本気で取り組んでいかなければ取り返しの付かない状況となる。政治宣言ではなく，実質的な地球規模の取組を求めたい。
W013	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル	脱炭素社会に向けた人々のライフスタイルの変化は起きているように見えるが、たとえば大型の電気自動車よりも小型のガソリン自動車の方がCO2削減に効果があるのに、大型の電気自動車を購入するような、意識と実効性とのズレが起こっている。
W014	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気象災害が増加・激化している。その他の項目についても、ほとんど改善が見られない、もしくは少しづつ悪化しているように感じている。
W015	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	環境問題により人類の存続が脅かされるのはまちがいない。しかし、環境的に行き詰まって人類などの生物が死に絶えるというより、資源や生存環境の奪い合いによる戦争や紛争により、結果的に人類が絶滅へ向かう可能性が高いと思う。その意味では、生物多様性が失われ、海洋生物の急激な減少をはじめとする食糧問題、中国で顕著な公害による環境破壊が、結果的に人類を破滅へ向かわせる可能性があり、それを阻止しようとする勢力との間に起こる次の大戦が、生物にトドメを刺すだろう。
W017	東城　清秀	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	日本政府はもっと積極的に国内外に向けた施策を発信し、具体的な行動を取るべきである。G20サミットやオリンピックなど、日本がリーダーシップを発揮できる場があるので、それらを活用して貢献することを期待したい。
W019	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	4.生物化学フロー(環境汚染)	直接人の健康にかかわる問題は、とくに放置できないと考えます。
W148	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	10.その他	プラスチック海洋汚染が深刻なので生分解性プラスチック使用を義務化する必要がある。
W021	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動	気候変動の影響を受けているかどうか不明であるが、国内各地で、豪雨などの異常気象による災害が多発しており、非常に危惧している。
W022	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	SDG s の取り組みと同じく、地球環境の課題の項目は一つとして独立したものはなく、そもそも分離した扱いは誤解を招くが、例示的この4項目を見てみる。問題の本質をたどると、9.. とその下敷きとなる8.が 言わば諸悪の根源と考える。ここにメスが入らなければ、1.、2..や他の問題も解決のしようがはって無いと思う。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W024	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	温室効果ガス削減が急務
W025	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	課題を解決するには、人々の意識の改革が不可欠。環境問題は気が付いてからでは遅い。包括的・戦略的な政策が求められる。
W026	西條　辰義	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	ロックストロムなどの科学研究者たちは「最後通牒」を出すものの、社会がどのように変革されねばならないのかの議論が不十分ではないのか。現在の民主政と市場という仕組みは将来世代を取り込む仕組みではない。このような基本的な枠組みの変革を起こす仕組みのデザインが今こそ求められているのではないのか。
W152	西田　治文	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 7.食糧	生物多様性の減少が続き，いずれ気候変動の影響もあって食料の安定供給が難しくなる事態が頻繁に訪れることを懸念する。加えてプラスチック汚染が急激に拡大し，生態系の崩壊による生物資源自体の減少もさらに進むと考えられる。食料は人間生活の基本で，いかなる経済活動も食の安定なくして成り立たない。
W031	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	環境問題は、掛け声倒れなのではないでしょうか。
W032	宗宮　弘明	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	昨年の夏は猛暑であり、異常な気候であった考えています。この冬も、日差しは今までと違う何かがかんじられました。個人的には、CO2濃度が気候変動のクリティカルポイントを超えてしまったような気がします。経済の目標を環境の修復に向ける時代になったと僕は考えて、細々とした努力を続けています。
W033	足立　直樹	アジア	日本	企業	50代	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	農業生態系、水産資源も含めてですが、日本における生態系への関心があまりに低くまた前時代的です。 このままでは日本（人）が、地球の多くの生態系（陸上・水中とも）を破壊する先鋒となり、非難されることになるのではないかと心配しています。 いま世界はどのような状況なのか、それに対してどのような対策が考えられ、実施されつつあるのか、そうした現状をもっと日本（人）に伝える必要があります。
W034	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	国連のSDGsを達成するために、政策・施策および社会的な仕組み等を着実に見直していく中長期の視野が重要と考える。
W036	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	昨春以降、海洋プラスチックごみの話題が新聞でもテレビでも大きく取り上げられるようになっています。この問題は老若男女を問わず、関心を引きつけており、環境分野の話題としては、近年にない、一般の人に対しても訴求力のあるものとなっています。 環境の危機が当たり前のように語られ、そのために感覚がともすれば甘くなっているところへ、意識改革を迫ることがあらためて可能となる状況が生まれています。当たり前になったものの、放置しておいていいわけではない環境問題にあらためてきちんと向き合う世論が生まれれば、脱炭素社会に向けた動きが加速するかもしれません。 ごみ問題は海の生き物を中心に、生物多様性にも影響があるため、2010年の生物多様性年のあと、言葉として流通することの減ったこのテーマも、一般の人の中に再浮上する可能性があり、この機会をうまく生かすことが必要だと感じています。 EUなどと比べると、温暖化も生物多様性も遅れをとることの多い、日本において、環境の話題が巻き返しを図るようでなくてはならないと思います。 パリ協定の順守は、社会システムの組み替えをともなうものとなるため、そのよう大きな構想のもと、日本も官民挙げて取り組みが本格化するように、力を注いでいきたいと思います。 石炭火力発電からの決別、EAG投資、SDGsの達成、生物多様性に配慮した認証制度の普及、東京五輪・パラリンピックの調達方針など、多岐にわたる話題に、環境NGOとして切り込んで行かなくてはならないと決意を新たにしています。
W037	楠田　哲也	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	地球環境問題解決は地球上に生命を得ているすべての人で決定し、推進する必要があるが、残念ながら、世界政府のような組織を有するに至っていない。また、人の理性に訴えて、地球環境の保全を図ろうとし民主主義の意思決定システム「多数決」に訴えても過半数をとれそうにない。同様に世代間倫理の構築にも問題が残る。努力を重ね、いずれかの時点で大きな変化を引き起こさざるを得ない。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W038	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 6.人口 8.ライフスタイル	地球環境が大きく変化しつつあることが、災害の激甚化に表れているという。発展途上国の貧困が改善されても、経済的発展が次第に、アフリカ・中南米・アジア諸国にいきわたっても、責任の擦り付け合いに終始着てきた、地球環境問題は置き去りにされつつある。 人類も、生物多様性の中で、絶滅の方向へと自ら歩みを進めているように思える。
W040	佐々木　康之	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	40代	2.生物圏保全性(生物多様性)	Planetary boundariesが示す通り、「不可逆的かつ急激な環境変化」の危険性という意味において、生物多様性の喪失にもっとも懸念を抱いている。もちろん海洋酸性化、オゾン層の破壊、土地利用の変化やそれ以外に関しても重大な端境期に直面していることは周知の通りだが、生態系をこれほどまで圧迫して地球の均衡が崩れている理由には ・大量生産大量消費 ・都合の良い品種改良 ・生物の生息数、生息地域のコントロール ・経済システム などがあげられ、小学校で習う生態ピラミッドの仕組みは人々の意識をはるかに上回るほど緻密で、このバランスが崩れることがあらゆる局面に影響を及ぼしていることを認識する必要がある。 「人は豊かになれば、肉食が進む」 このような一節を聞いたことがあるが、肉食に限らず、豊かになれば良いものを持とうとする意識も芽生える。 コンプレックスを擦り込むような経済戦略もそうだが、もっと想像力を働かせ、ローカリゼーションに目を向けないと、2030アジェンダどころの話ではない。 温暖化問題では、「20XX年の天気予報」のような啓発をよく見かけるが、同じように未来の地球を想像すると、本当に手塚治虫が描いたような未来が待っているとしか思えない。 20世紀はオイル、21世紀は水の時代と言われて久しいが、このままいけば次は当然空気、いわゆる酸素を作り出す生態系の危機についてはすでに目前にせまっており、その後は人類の危機という順当な流れが予想できる。
W041	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	地球環境問題は存在しないと考える。京都議定書自体が欧米の策略だと考える。温暖化のメリット。デメリットを比較し、どっちが良いのか検討するべきである。
W042	永野　博	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	人々の地球環境に対する関心を大きくするためには、環境政策のみならず、経済政策、科学技術政策、国土政策などをとりまとめた総合的な考え方を政府が示し、日本のとるべき方向を、将来のビジョンを示しつつ、真剣に伝え、議論を喚起する必要がある。しかし現在のところ、断片的な政策はあるものの、政府としての腰の据わった態度が伝わってこない。そのような気配が感じられないのが問題である。エネルギーの供給方法についても、原子力発電がどのような理由で、どの程度必要なのか、日本の地政学的状況を考えればある程度必要なことは想像されるが、その必要性についての真剣な説明をしようとする姿勢が感じられない。日ごろ、国民の間で、このような問題について、あらゆるところで国民の関心を呼び起こし、議論する環境を作る必要がある。そうでないとたとえ政策上は正しいことが決まったとしても、関係者の間でそれを実現しようとする力がでてこないのは明らかではないだろうか。
W043	有谷　博文	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動	現在のアメリカの国際基調やそのための協調的体制からの実質的な脱退、英国のＥＵ離脱にかかわる影響など、結果的に環境的影響につながる直接間接の両面での悪影響が極めて懸念されます。これらは数年後からそれ以降に悪い結果として現れることが強く懸念され、現在取り組まれている様々な取り組みを相殺ないしそれ以上の結果として地球環境に反映されることと想定します。
W157	名取　洋司	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	国際社会での目標設定の際、高すぎる目標は「現実的でない」という議論が多く聞かれる。大変革を起こさない限り安定した生活をおくるための環境が壊れてしまうことが科学的に示されている中で、そうしないことが現実的とする認識は何か？科学的に示されている目標値以下の目標を現実的とすることは、将来の人間社会が成り立たなくなることを現実的としていることを認識すべき。生物多様性、気候変動で目標を設定することの意義は、目標を達成することではなく（目標を達成しても問題が回避できないのであれば、目標を立てる意味が無い）、最悪の自体を防ぐに十分な変革をもたらすことであることを認識しなければならない。
W046	[-]	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動	地球環境問題については、感傷的な衝動に陥ることなく、更にしっかりした科学的事実、論拠、考察、議論が望まれる。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W047	安藤　元一	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	SDG s がこれだけ社会の関心を集めている理由の1つに、わかりやすいロゴを用いたことを挙げてよいと思う。 ほんの小さなきっかけが社会を変えてゆけることを示す好例といえる。MDGも似たような発想だったが、メディアがとりあげることも少なかった。 （このアンケートは世界を俯瞰して客観的に応えるのか、あるいは日本在住であることを意識するのかによって、回答は全く異なってくる。前者の立場で応えるのは難しい。）
W052	西　史郎	アジア	日本	企業	60代	8.ライフスタイル	過労死が契機となり、マスコミや一般の方が働き方に注意が向くようになった。働き方改革の法制度が整い、ICTやAI、RPAなどの活用により生産性が向上して働き過ぎをなくす仕組みが出てきた。自由に使える時間が増えたことで、これまでのライフスタイルを見直しワークライフバランスがとれ、持続可能で充実できるものになると期待している。
W053	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	地球温暖化のような、環境破壊に伴う加害が個別ミクロの経済活動の集積によって生じ、しかも加害と被害の関係が直接的でなく、被害の可視化が難しいが、長期的には甚大な被害を及ぼす可能性がある環境問題に的確に対処するためには、個別ミクロの経済活動の場面でその集積が何をもたらすのかを認識させ、評価することにより改善の動機を与え、政策等によって改善の方向に誘導することが重要である。 そのような観点で、企業等の行動の自己評価ツール、当該評価を審査の上で優遇金利等で支援する取り組みや上乗せ補助等の政策的な支援措置など、多様なツールを一層深化・充実させていく必要がある。
W054	西岡　秀三	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	2105年のパリ協定・SDGsの発足により、人間生存基盤としての自然環境の保全に関する意識が、専門家社会・政策担当者社会だけでなく、ビジネス、都市、など行動を起こすべき当事者（ステークホルダー）に広がってゆきつつことは評価される。その一方で、例えばビジネスのSDGsの取り組みが、本質的な自然共生を目指す活動を避けた、目先それらしい免罪符的な行動であったり、景気のサイクルに左右されるもののとどまり、消費喚起ビジネスや経済全体の膨張が止められない限り、かえって（自然の中でしか生きられない人類の）危機を拡散させる危険もある。パリ協定まで30年の論議が続いたし、便利だが自然に帰りにくい（ストローは象徴的でわかりやすいが）プラスチック全体をどうするのか、温暖化と同じく数十年の論議がいるだろう。自然との共生・持続可能性・満足経済・適正技術などを踏まえた人類の「発展」を考える社会システムへの再構築をそろそろ考えねばならないのではないか。
W158	横堀　惠一	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動が従来とは異なっているということを実感する機会は増え、また、観測技術、データの質の向上などにより、その意味での認識は改善されている。しかしながら、ライフスタイルの見直しや社会制度の変革については、求められる水準から見れば、まだ低く、他方、現実的な対応への取組への合意形成が進んでいないように思われる。それぞれの置かれた状況への理解を深め、現実的に何ができるかをもっと考えるべきであろう。
W057	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 9.社会、経済と環境	政策や制度、技術に関する改善は少しづつ進んでいると思われるものの、間に合うのかという危惧を抱いている。
W059	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル	米国の振る舞いひとつで世界的な潮流が大きく変化するのはおかしい。
W060	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	経済的・人的・資源的な制約を考えると，気候変動，越境環境汚染，生物多様性の喪失が混然となって，複合的な環境崩壊を起こした場合，適応策を打てる余裕があるのかどうか不明である．生物多様性については，すでに現状でベースラインの1000倍(Ed Wilson)とも言える絶滅速度を保つことができず，DNA情報だけでも保存するという施策がとられているが状況なので，ほぼ手遅れだと思う．日本についての外来生物被害は環境ではなく人的な被害ですら抑えることができなくなっている．PM2.5やMicroplastic汚染，海洋有機水銀汚染も野放しである．水銀漬けのマグロをありがたがって幼児期から大量消費している日本では，成人になった時に脳に障害が現れてもおかしくない．すでに発生している事態にも十分対応しているとはいえないのに，この上さらに気候変動リスクが加われば，海洋の酸性化でサンゴ礁が消滅し水産資源が枯渇することから実害が明確化するだろう．

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W061	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	昨今の世界情勢から、地球環境問題への取り組みを世界的に改善して行くためには、歴史的な視野とグローバルな観点から理念と理想を追求していくことが必要ではないかと思います。
W062	堤　純一郎	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源 9.社会、経済と環境 10.その他	地球全体の環境において、気候変動の問題はほぼ全体をカバーするもので、その気候変動を引き起こすエネルギーは太陽エネルギーであり、それを地球上で実際に気候へ置き換えるものは主として海洋を中心とする水循環である。その意味で、太陽エネルギーと水循環およびその熱交換を含めた全体の体系をモデル化して、今後の地球環境を予測しなければならない。その中で、人類のすべきことを定量的に明らかにしていく必要がある。気候変動に対する人間の行動や政策、経済方針等を決めるのは、その結果を考慮してからである。現在、市民運動のようなレベルで地球環境が扱われるのは、意識啓発には良い動きである反面、間違った方向へ'進む危険性をかなり含んでいる可能性がある。冷静に科学的な裏付けを持って対応を考えていくべきである。その中でかなり大きな役割を演じるのはマスコミである。安易に一般市民の不安感や焦燥感を煽ったり、ほとんど効果のない市民運動などをヒーロー的に取り上げるような報道は、厳に慎むべき、あるいは合理的で科学的な論説をつけるべきである。
W063	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動	地球温暖化への対応に関しては、国の政策が有効に機能しているか疑問である。政策に係るコストとベネフィットを国民に分かりやすく報告する必要があると思います。
W065	並木　慎一郎	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	国の方針と実態が、かけ離れている。 地域ごとの行政、住民の意識は格差が大きく、逃げ得、やり損が目立つ。 国民の意識改革(行政の指導力)、ペナルテーの強化が必要。
W068	山田　英徳	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動 5.水資源 7.食糧	気候変動がもたらすもっとも深刻な影響は水資源の減少や変質に向かう変化や食糧の不安定な生産がもたらす人類の争いの新たな危機勃発 ではなかろうか。気候変動がこれだけ短時間に顕著に表れている現在、私たちの認識が常に後追いになっていること、またその影響の現れ方が地域によってさまざまであることが対策に対する後追い状況を作っていて、これから厳しい状況を想定した根本対策を取っていくことはかなり難しい状況になってくるのではなかろうか。さまざまな状況を想定し、人知を尽くすことがいま求められていることであろう。
W069	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 6.人口	地球環境問題が自分事、将来世代への負の遺産として理解できていないのではないか。
W070	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	気候変動対策を早急にかつ根本的な対策を講じなければ、人類をはじめ地球の生命は消滅するでしょう。しかし、アメリカのトランプ政権の動きは逆方向で、安倍首相に強く説得に当たっていただきたい。中国は、方針を転換しつつありますが、国民レベルでは全く不十分ですので、国際世論による働きかけが大切です。
W071	平石　尹彦	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動 5.水資源 7.食糧	温暖化問題については、危機の認識や、異常気象の発生など、緊急な対策を必要としている状況になっていることは明らかであるのに、今でも非科学的な温暖化懐疑論が横行している。温暖化の進行に伴い、ダム、灌漑、水利への投資の遅れによる農業用水の不足が顕著になっており、これが農業活動への悪影響を及ぼしてきており、特に発展途上国の貧しい人々を厳しい状況に押しやっている。このような状況を打破するにはグローバルな国際協調が是非とも必要であるが、視野の狭い自己中心的、かつ、短期的な利害という視点に立った立場をとる大国（例えば、米国、中国）がそれを妨げている。
W072	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	来年のオリンピックやその先の大阪万博など、かつての技術楽観主義に基づき地球資源の有限性に目を向けずに成長経済を追いもとめる日本社会の状況、身近な気候変動リスクに有効な対策を打たない日本の現状に危機感を持っています。そろそろ臨界点を超えた社会システムの崩壊の兆しが現われると思っています。
W074	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	継続的にデータを蓄積、解析することが重要と思われる。
W075	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	政策、施策の根本に金儲けの考えが根強く存在し、環境問題は二の次になっているように感じられる。
W077	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	人間が人為的に作り出した物による汚染の心配がつきない。一つは放射性物質であり、全世界でこれらを用いたエネルギー供給が増えているが、そのために蓄積されている廃棄物が将来の地球を汚染することは明白である。また、二酸化炭素もそうであり、すでに気候が世界中で厳しいものになってきている

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W079	川村　研治	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	日本では、脱炭素社会への政策、技術が遅れている。　未だに石炭火力発電プラント建設・輸出が取り沙汰されている。　再生可能エネルギーは電力系統のキャパシティを理由に事実上上限が決められている。　再生可能エネルギーの不安定性を補う技術、例えばグリッドの改善などが政策課題として取り扱われていないのではないだろうか。　日本の政府はアフリカ開発援助に力を入れ、2019にはTICADが開催される。　サブサハラ地域が貧困から脱することはMDGs以降の重要なテーマであることは間違いない。　課題は電力不足と道路の整備があげられているが、現在の技術の延長線上では発電は化石燃料、道路ができた後ガソリン車、ディーゼル車が走ることとなるであろう。　10億人に電力を供給し、自動車の利用を可能にすることは、二酸化炭素排出量の増加を招く。　貧困対策が温暖化を加速するリスクを負うことになろう。　代替技術開発の政策誘導はなされているのだろうか。 また、日本の政府、経済団体のSDGsへの対応は「成長戦略」である。　第五次環境基本計画は環境・社会・経済の調和をうたい、「地域循環共生圏」を掲げているが、強力な経済的インセンティブを持たない理念によるトップダウン政策のみで動くとは思われない。　資金が動員できないからこそ「持続可能な開発のための教育（ESD）」が重要、ということになるのだが、即効性はなく、効果も定かではないという理由で後退を余儀なくされている。　もとより、教育が今の経済社会を動かす力を持っている層の意識・行動様式を変えることは絶望的に困難であろう。　第五次環境基本計画策定の審議過程において、ある経済団体は「プラネタリー・バウンダリー」は一研究者の説に過ぎないとして、この文言を入れることに強硬に反対した。　大人の意識改革を促すための方策はおそらく経済的誘導策なのだろうが、産業政策の中で真剣に議論されているようには見えない。 生物多様性の劣化は、日々の食卓にのる食材の変化で実感できる。　ウナギやマグロは既に保護対象種でなければならないのに、価格高騰のため生産・漁獲の意欲をむしろ高めている。　気候変動による自然災害の頻発は森林劣化の原因であり、結果でもある。 残念ながら紙幅がつきた。
W167	道家　哲平	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	30代	2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル	生物多様性愛知目標の後継として議論されているポスト2020目標に期待。SDGs達成に向けて企業等の意識が高まりつつある中で、持続可能な社会を支える自然と、その自然への取組が世界的に不十分であり、生物多様性保全への投資がより多く向うようなきっかけをつくる機会になって欲しい。
W081	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	りんご栽培に少し携わっているが，例年の作業が経験則には従わなくなっている．植物は気候変動に対して人間より敏感である．したがって対応も早いかもしれない．このままで対応策を強化しなければ見放されるのは人類であろう．
W083	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	TCFDやSBTなど、ここ数年と比較すれば気候変動対策への取り組み、流れは確実に前進していると思います。一方で、単に製造やサービスで使用されるエネルギーや排出されるCO2等にのみ着目されていて、製品の使用時において削減されるCO2も評価しないと正しい活動に結び付かない懸念があります。
W084	嘉田　良平	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性)	トランプ大統領の発言に象徴されるように、多様性の価値認識がますます失われつつのではないか。
W174	中山　由美	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル	気候変動や生物多様性という”言葉”だけは多くの人に知られるようにはなってきた。ただ、実際の理解はさほど進んでいないし、それらの影響で何が起こりうるかを真剣に考え、危機感をもって対策に取り組もうとする人はまだごくわずかしかいない。政府は原発事故の反省もなく、原発依存から本気で脱却しようという政策もない。再生可能エネルギーの技術開発は進んでも、広く使われるための仕組みをつくろうとの姿勢は見えない。依然、地球環境への危機感や切迫感は薄く、経済優先の道を歩み続けている。”自分たちだけ”、”今だけ”よければという考え方をやめて、地球環境や生態系全体、そして次世代のため、という広い視野をもった考え方に切り替えなければ、未来はないと思う。
W087	大西　章博	アジア	日本	大学研究機関	40代	9.社会、経済と環境 10.その他	環境問題の多くは経済活動や政策のために利用されているようである。
W089	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	持続性に関する価値観を社会全体でもっときちんともつべき
W090	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	一部であっても実害や実影響が出ているということは、その進行が深刻なものとなりつつある兆しと考えらる、もしくは考えるべきであると思います。ただ、たとえば災害を見ていますと、「まさか自分が」とよく耳にします。どこかで、自分はその当事者にはならないだろうというバイアスが働いてしまう傾向があります。バイアスが働いてしまう場合の対応に対する工夫がさらに必要ではないかと思います。
W091	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	2.生物圏保全性(生物多様性)	日本は相変わらず商業利用優先。河川、湖沼、海洋資源の保護に取り組むべき。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W094	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	昨今の気候変動は、過去に経験した事が無い規模になり従来のインフラの限界を越えている。この事は、地球の温暖化が限界に近づいていることを示しており、官民が協力して国家予算の縛りを外してでも対応していかなければならない事を政府はしっかり認識してほしい。 毎年、インフラの限界を越えた災害でたくさんの国民が亡くなっている事実を考えると緊縮財政を進める政府は、国民の命を軽視しているある意味殺人国家と言われても仕方ないのではと考える。
W179	枝廣　淳子	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	パリ協定はできたが、実効性のある政策とその実施ができるかどうかにかかっている
W096	天野　正博	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	SDGsの目標達成を2030年に求められているが、民間レベルでの取り組みは散見するものの、国レベルでのロードマップを目にすることはない。欧州では自治体レベルでも取り組みを紹介されることがあるのに比べ、6月のG20を目の前にしてもメディアでも取り上げられることがない我が国に危機感を覚える。
W098	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動	九州・福岡に住んでいると、P.M2.5の汚染がひどいと感じることが多い。
W099	押谷　一	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題についてマスコミが取り上げることも少なくなってきた。福島原発事故によって脱原発が進むと考えていたが、日本の政府、産業界はいまだに原発推進であるし、火力発電がフル稼働している。生物多様性の喪失も含めて環境は確実に悪化している、人びとの意識やライフスタイルは改善の兆しがみえているようにも思うが、抜本的な改善につながる政策や資金の確保はない。アメリカが保護主義的、かつ産油国になったこと、ＧＤＰ第３位の日本は全くプレゼンスをもたず、第２位の中国が鈍化したとはいえ、急激に人口増加、経済成長が進んでいることを考えると、食糧、水資源を含めて非常に危機感を感じている。
W102	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	世界全般としては、地球環境改善に熱心に取り組む政策提言・姿勢が見られるが、相変わらず米国の政策がやや後ろ向きで、協調姿勢が見られず、将来改善に向かう展望が出た来ないことに不安を覚える。
W103	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源	気候変動は特に喫緊の課題と考える。様々な対応技術が開発されているが、実感として改善に向かう兆しを感じられない。課題解決は一国の努力では不可能なので、国連の場等を通じた国際協力が必須であるが、各国の利害によりなかなか前進しない現状を早く打破する必要があると思う。 日本は他国のご機嫌伺いをしているべきではなく、議論をリードするくらいの気概が欲しい。また、様々な技術開発においては積極的に対応し、日本の将来を支える技術を育てるように動くべきだと考える。
W106	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 6.人口	地球規模では、核物質やマイクロプラスティック等による汚染が拡大していると思います。又、大都会の高層ビル化と居住人口増加、遠距離通勤の増加も気になります。更に、GHG排出抑制の為という口実による、メガソーラー建設の為の森林・農地破壊と、風力発電設備建設の為の大規模な天然地形の人工物化は、不自然なつじつま合わせと観れる場合も大きいと思います。ウィンドファーム・メガソーラー・大規模架空送電線などの人工物設置は極力縮小させ、自然界との調和・共存を志向すべきと思います。社会インフラや工業団地向け電源開発は、極力狭い地域への集中設置を心掛け、自然環境への負担を減じるべきと思います。
W107	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	「格差社会」という言葉は多用され過ぎていて好きではないが、環境への取り組みへの関わり方においても、真摯に考える人や企業と、そうではない人や企業の間のギャップ（落差）が大きくなってきているように感じられる。環境の大切さを知らないわけでもないし、何らかの対策が必要であることを認識してはいるが、それを頭の中だけの話にとどめる、あるいは定型化された活動をすることで良しとしてしまうことが多くなってはいないだろうか。すべての物事に積極的である必要はないと思うが、受け身の姿勢だけでは「傍観者」と変わらない。そうした者を、さてさてどうすればよいのやら。
W188	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	気候変動による自然災害への備えのためにインフラ整備が行われるが，そのためのエネルギー，化石燃料の消費による環境負荷が生じてしまう．グリーンインフラを活用した備えをもっと積極的に進めるべきだと思う．地球規模で起こる環境問題に対して，特定の国の利益を優先することがないような国際的な取り決めをすべきだと思う．
W110	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	パリ協定が実行されることが決まったが、実質、どれだけの効果が出るか、未だ、良く分からない。日本の対応も不十分ではないかと考えられる。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W189	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 6.人口 9.社会、経済と環境	長期の環境課題は、一般の人にはなかなか実感としてイメージできず、目先の経済、国家間紛争など、直近課題に翻弄されている。 メディアの役割は非常に重要だが、レベルが相当低くなっていると感じており、一般受けする記事しか取り上げない傾向がますます強まっている。ナショナリズムは、それを助長するものであり、地球規模の課題は、一部の特定のグリーンピープルを除き、自分に降りかかる大問題という認識がない。非常に懸念している。
W190	[-]	アジア	日本	大学研究機関	30代	2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	水産資源については、「野生」のものであるにも関わらず特に日本沿岸の資源管理は崩壊状態にあると思います。
W117	藤岡　諭	アジア	日本	地方自治体	60代	8.ライフスタイル	市民の環境問題に対する意識は、高い人と低い人の差が大きく開いている点が、課題だと思う。 例えば、過度のネットショッピングの利用は、宅配便の利用による温室効果ガス排出量の増加を招いている。また、包装容器を始めとする過度のプラスチック製品の利用は、マイクロプラスチックによる海洋汚染を招いている。 いずれも便利さと引き換えに生じている地球環境問題であり、環境改善には多額の経費と膨大な時間が必要になっており、環境配慮型のライフスタイルの実現が解決に必要不可欠であると考える。 これらの課題は、一人ひとりの行動から発生する負荷は僅かである一方、多くの一般の人が直接的な因果関係を理解するのは難しいことから、普段の啓発・教育が必要になると思う。 併せて、必要な法制度（規制）や経済的な誘導（グリーンエコノミー）により、環境配慮型のライフスタイルの実現を支援していくことも必要と考える。
W119	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	一昨年来既述した弊意見(下記引用)の諸現象が全く改善されず悪化が進行しており、 更に昨年より東京オリンピック誘致が首都圏を中心としたの乱開発を加速、加えて昨年、世界的喫緊課題であるプラスチック使用･廃棄に対し国家として極めて消極的な取組姿勢を表明している事に一層危惧感が募る。。 ********** 現自民党政権の環境保全を軽視し経済発展を優先させる施政方針が依然として変わらぬ事､及び其れに迎合するマスメディアに危惧感を覚える。例えば ・使用済燃料の処理策が決まらぬ儘?原子力発電を再開継続 ・補充発電として石炭火力を推進 ・資源エネルギー多消費型観光産業推進の称揚 ・資源過剰消費を顧みないグルメ云々等の食習慣の喧伝 ・首都圏の乱開発の再発進行　　等々 之に加えて、米国トランプ政権の近視眼的経済活性化のみを重視し(異常気象の多発､サンゴ白化の世界的拡大､北極海開水面の急速拡大等々に見られる)気候変動などの環境危機問題を無視する諸政策推進に戦慄を覚えている。
W120	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	40代	9.社会、経済と環境	政策の骨子は都道府県レベルで、施策は市町村レベルで策定・実施していく必要があると考える。経済界とは、経済動向を考慮した施策を、パートナーシップで推進していくのが望ましい。一般の人々に向けては、未だ漠然とした意識をもつ人が多いため、メディア等を通じて現状を正しく分かりやすく伝えること、ニュース等で話題提供の機会を増やすことを地道に行っていくことが必要と考える。
W121	[-]	アジア	日本	その他	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境	途上国の現状が日本国内の人々にまだまだ知られていない。
W125	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	温暖化の進み具合は確実であるが、一部に温室効果ガスをその原因としない向きがあり、自国第一主義を主張する国が出てきたことは残念なことである。学術的に温室効果ガスの温暖化に与える影響について納得できる証拠を示すことにより、国連等にてその影響を含め広く合意を得ることが肝要と思う。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W193	荒山　裕行	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧	地球上で行われる人間活動の結果である気候変動をはじめとする環境悪化は「人間の老や死」と同じで避けられないことなのだ思うようになりました。切り札となる「環境政策」がないのも「不老不死」の薬がないのと同様のことかと思います。このことを改めて認識することで、「（人類と地球の延命策」としての新たな環境政策、環境対策への発想があるのではないかと期待します。
W127	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	現在の国際的な目標では、気候変動の対処は難しい状況だ。日本におけるエネルギー問題の対応（政策）は不十分だ。
W128	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	50代	2.生物圏保全性(生物多様性)	危機意識が少ない。教育の問題か。
W129	吉田　薫	アジア	日本	ジャーナリズ	50代	1.気候変動	影響が現れ始めている。しかも対処はとても難しい。
W131	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	政治家や利権団体の利益誘導が露骨でひどくなっている。
W133	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	世界全体での人口抑制を通じて、地球環境を守るべきである、健全な生態系ピラミッドを考え、上位捕食者であるヒトを抑制することが、多くの問題解決につなげられる。
W134	菊地　幹夫	アジア	日本	その他	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染)	プラスチックはなかなか自然界で分解されにくく，そのため広く環境を汚染しています。そのプラスチックを野生生物が餌と間違えて食べるなどしてその生息を脅かす例が見られてきました。このところ一気に世界中で関心が高まりはじめましたが、人々の関心が高まっているうちに新たな対策の実施に結びつけられるかが重要になります。使い捨てプラスチックに依存した社会構造を変えて，資源を有効に利用し循環させる社会にしたいと思っています。
W135	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	気候変動への関心は高まっているが、身の回りの各個人の生活がそれを反映しているかというと必ずしもそうではない。一般論として気候変動への取り組みに賛同していても、現実の生活の中でエネルギー消費を抑えているかというと必ずしもそうではない。これも人によって温度差があり一概には言えないが、意識と実際の行動の間には差異があると思う。電気自動車の普及が叫ばれているが、電気を生じさせる時点でのエネルギー消費のことがあまり議論されていない。バイオマスエネルギーについても、それによって生じる森林消失の面の議論が十分ではない。世界レベルでの人口増の問題を解決しなければ、いくら省エネルギーが進んでも個人の消費量が増大し、人口が増大すれば人類全体で消費するエネルギー量が増大する限りは、気候変動の問題を根本的に解決することにならない。
W136	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	米国のパリ協定脱退に見られるように、温暖化さえ信じない国もある。多くの国が他国より自国が大切と考える風潮のなか、効果がすぐに表れない温暖化対策は後へ回されそうな気がする。
W199	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	地球環境と地域経済をトレードオフ関係で捉えなければなければならない状況では地域経済が優先される。このため、発展途上国だけでなく、先進国における衰退しつつある地域においても、なかなか環境政策を優先的に推し進めることができない。地球環境問題の解決は、温室効果ガス削減と経済活性化の両立を図る環境経済政策や産業イノベーションが必要不可欠である。
W139	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	10.その他	SDGsが社会全体の話題とはなってきており、上記の1~9の項目すべてを包含しているはずであるが、まだ理解が深まっておらず解決の方向が見つかっていない。SDGsが達成されるように日本及び世界各国が個人の利益ではなく地球全体の問題として取り組んでいけるよう制度を整えていってほしい。
W141	榮　昭博	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	印象として、本地域（北関東）の気温上昇は顕著なものとして感じることができる。
W202	飯田　哲也	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	再生可能エネルギー、とくに太陽光発電と風力発電、そして蓄電池の驚異的な成長は、実質的に唯一の実効的な気候変動ソリューションとして期待できる。
W143	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	エネルギー消費を低減してCO2排出を減らす方向で各事項を考えて取り組むことが多くなっている。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W145	御園生　拓	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	項目すべて環境問題に関わっている．いずれも目に見える進展はなかなかないが，一部で改善に向けた動きが見られる．原因－結果関係が情動レベルで認識されない限り，実質的に社会が変わるというのは難しいのだろう．
W146	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動	世界でもっとも深刻な環境問題は、地球温暖化です。産業革命以降、化石燃料の使用が増えることにより、大気中の二酸化炭素の濃度も増加しています。この二酸化炭素が最大な温暖化の原因と言えます。しかし、二酸化炭素の排出量の最も多い国の一つであるアメリカは、地球温暖化の緩和策に消極的であるため、この問題の解決には、どうすればいいかが分かりません。地球温暖化問題の解決に向けて、更なる国際協力が必要です。
W147	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	保護主義、自国第一主義の政策が一番環境破壊につながる。
W210	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	9.社会、経済と環境	世界的にポピュリズムが蔓延し、今の自国や自分のことのみしか考えない風潮が強まり、地球全体や将来を踏まえた俯瞰的な視点が欠けてきて，２０世紀に積み上げてきた環境問題へのきて地道な取り組みが行き詰っているいるように思う。進行中の第４次産業革命を契機に、何らかの環境問題への前進が図られることを期待する。
W149	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	8.ライフスタイル	少子高齢化が進み経済格差が増すなかで、環境問題への意識の低下が起こっているように思える。
W150	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用)	東日本大震災を経験したにも関わらず、国内の民生部門で省エネが浸透していないことに強い懸念を覚えます。また、東南アジア熱帯域の森林消失や土地利用変化は非常に深刻な状態です。
W151	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	新たな問題として，地球をとりまく宇宙空間の軍事利用の現実化がある．まだ大きな実害は無いように思えているが，現実問題として宇宙ゴミの急激な増大に対し，これを除去する効果的方策が考えられていない．その中でますます宇宙空間の状況をを人類が軍事利用から，恣意的に自然な状況から，より悪い状況に変化させようとしている．
W153	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	日本の脱炭素の取り組みの遅さに対して、世界的責任に対する不誠実さであると感じることがある。本日の日経新聞でも、石炭火力発電について３名の識者のうち２名が、石炭火力発電を後押ししており、脱炭素には積極的ではない。これが企業で働く多くの人に読まれる新聞であると思うと、この緊急性のなさに驚かざるを得ない。それ以上に事態が進んでいるのが、人間がゴミや汚染物質、「開発」によって他の生物を驚くべき速さで絶滅させていると言うことだ。企業や自治体などの組織が、パワハラやセクハラの無い職場宣言を行って実践していくことが、人々がパートナーシップを持ってSDGsの課題に取り組む土壌を作ると思う。脱炭素への取り組みの遅れも、パワハラだと思う。
W154	楊　宗興	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	脱炭素の必要性についての理解、認識が、特にわが国の場合には弱い。
W155	[-]	アジア	日本	企業	50代	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	開発、乗用車の普及、交通網の発展等による自然破壊について、日本国内では最近あまり話題となっていない気がする。観光、登山や、きのこ・山菜採り等、一般人が山に入りすぎ。
W212	渡辺　哲	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源 10.その他	気候変動に起因する各地の異常気象は、その多くが洪水などの水災害である。 気候変動を惹起する主因として地球温暖化であることが言われてかなり久しい。 しかし、世界中の多くの地域で多くの人々が温暖化による水害被災を経験しているが、物理的（被災地域）・時間的（被災期間）事象があまりにも多く、半ば常態化してきている感さえある。「茹で蛙」のごとく気候変動が常態化し水害発生も常態化してくると被災者はその被害を憂い、被災者状況をメディアを通して視聴する人たちは「またか」と半ばあきらめのごとくスルーしてしまう。 このことは、その問題の核心と深刻さを人々の意識や政策上の上位付け、資金調達供与・人材育成・技術開発・設備投資から遠ざけてしまっている。 異常気象の発生（規模を含む）件数と気候変動に係る地球環境問題への関心は、反比例しており、事態は年々悪化し深刻さの度を増しているといえよう。「環境危機時計の針は、一層進む」ばかりである。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W159	佐久間　章行	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境 10.その他	貧困問題の解決、ガバナンスなどの社会経済システムの不備に起因する、遺伝子組換え技術・人工知能技術などの超先端科学技術を手段とした人間の善意・悪意の行動による、生活環境の急激かつ致命的な影響を予測し回避することが喫緊の課題である。食料有毒化によるる食料不足、水資源の強度な汚染、酸素濃度の低下による全生物窒息、パンデミックなどの不測の事態が発生する確率の期待値は決して低くはない。ビル・ゲイツ氏、ホーキング博士、ビル・ジョイ氏などの人類への警告をさらに展開し、独創的な発想による「次世代文明への移行」を検討すべきで時がきている。 人類が獲得した人工知能などの先端技術を駆使して、人類の自滅を回避するための根源的な解決の方策を探求すべきである。たとえば人工知能型ユートピア国（理想郷）の構築の方法論・政治哲学の樹立も必要となろう。 人類の遺伝子を「存続」させることが第一義の価値である。人類存続優先主義を提唱したい。
W160	[-]	アジア	日本	ジャーナリズ	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性は人類の持続的な生存に不可欠だが、脅かされている。
W161	橋本　和明	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	もっとSDGsを広め，日本の政府，地方，企業，大学などの意識を高める必要がある。企業や大学研究者のSDGsの意識が低すぎる。
W162	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	地球環境問題で最も重視される気候変動に関して、その重要性は欧州などでは深く認識される傾向にあると思う。しかし、温室効果ガスの排出量が1位と2位の米国、中国が真剣に対策に取り組んでいないことが人類にとって悲劇である。特にトランプ政権になって以降、米国の酷さは目を覆いたくなる。我が国においても、政府が真剣に対策を進める気があるようには思えず、また、産業界でも経済性が環境よりも優先されているように感じられる。
W164	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	一部の国や人々が脱炭素や生物多様性保全を叫んでいても、戦争や難民問題を抱える国や地域はそれどころではない。地球環境問題を考えるに、世界の国々における平和な関係がまずは必須だと思う。
W165	坪内　彰	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	米国現政権に代表されるように、世界的に見ると（我が国もそうだが）「環境」より「経済（お金）」、「明日」より「今日」という政策が跋扈しており、ＥＵのドイツやフランスに代表される環境政策が危機に瀕していると感じている。こうした流れこそが地球環境にとって最大の脅威ではなかろうか。
W166	森嶋　彰	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	9.社会、経済と環境	社会が持続的に存在することを前提としている企業が、地球環境の変化から持続性に危機意識を感じて行動しつつある。そこに微かな期待をしたい。
W215	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	生物多様性に問題があること自体の認識を社会として持つに至っていない気がします。環境汚染に関しても直接的に人体に問題が「起こりそうな」ものは捉えやすいのですが、地球全体で共有すべき問題とはなっていないものもあります。
W168	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	2015年に採択されたSDGsは、当初の予想を上回るほどに世界に浸透している。政府、企業、大学等いかなる団体も、SDGsに照らしてビジョンを設定しないと中長期的な成功はおぼつかないと広く認識されるようなった。SDGsを中心に、地球環境問題への対応が変化していくことを期待している。
W172	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用)	気候変動対策は掛け声ばかりで、何も進んでいないように思える。意識が高まってもいないと思う。 土地利用については、農地の宅地転用に疑問を感じる。人口減少社会になぜ宅地を増やす必要があるのか。 むしろ農地を残すことのほうが空間の利用の仕方としては望ましい。
W176	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	税金を使わずにできる環境保全を積極的に取り入れるべき。プラスティック類のデポジット制度は有効と思われる。
W178	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	気候変動は毎年の猛暑やゲリラ豪雨など、体感できるレベルまで来ており、喫緊の課題であるということが非常に実感できる。
W217	[-]	アジア	日本	企業	20代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	近年、異常気象が目立っていることに危機感を感じている。一方で、SDGｓが学習指導要領に組み込まれるなど環境教育の進展は実感している。今後少しずつ人々の環境に対する関心は深まると思われる。
W180	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	温暖化にばかり人々の目は向いている。一方、地球の地質年代的歴史を考えれば、次の氷河期は確実に来る。この点について、ほとんど議論されていない。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W181	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	温暖化に伴う気候変動の振れ幅が、急激に大きくなっていることを春夏秋冬を通じて強く感じています。この問題の解決に大きく貢献すると思われる経済活動が景気指数の悪化に伴い、規制をないがしろにしていることこそ、現代社会の問題の根底にあるものと考えています。政治・経済のオピニオンリーダーが出ず、こすっからい似非専門家・有識者然とした似非学者の淘汰が進むことを祈念するものです。
W182	葉山　政治	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性の主流化が進んでいないことが問題
W183	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	人類の社会・経済活動そのものがこれまでの地球の歩んできた道と逆行していると思えてならない。エネルギー資源を消費していく過程でしか生産活動が成り立たず、気候変動・環境汚染の基本的な要因となっていることは否めない。よって、いかにして地球環境を持続可能なシステムとして構築することが可能となるのか、人類に課せられた命題を実現させるための方策を確立する責務を人間一人ひとりが負っていることを自覚する必要がある。
W185	梅村　一之	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	21世紀において地球環境に最も大きな影響を与えている要因は、紛れもなく人類の活動にあると考えています。人類の動要因としては、石油・石炭・天然ガスから鉱物などに至る過度な資源開発から、これらを用いた生産活動、さらに宗教や民族、貧困と差別等々に根ざした地域紛争もまた地球環境への負の要因として作用しているように思います。こうした問題を解決する手立ては、そう簡単ではありませんが、先ずは20世紀型の大量消費社会をと人口問題を是正すると共に、相互理解『和解の力・政治・政策力』による特に紛争の解決が鍵となるように思います。
W187	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル	地球環境問題を考えるには総合的な視点が不可欠である。特に気候変動に関しては、エネルギー・経済問題と密接に関連しており、いわゆる3Eの同時達成を目指す必要がある。デジタル化、電化が進む将来を見据えると、非化石電源である再エネ、原子力の役割は非常に重要である。再エネに関しては、主力電源として低コスト化と電力系統安定化を阻害しない技術開発が必要となる。また、原子力は新増設が見込めない状況にあり、国民の理解を得る努力とより安全性の高い新型炉の開発が急務である。化石燃料が再エネの不安定化を補う役割を担うことを当面のあいだ続けざるを得ない。パリ協定の目指す２℃、１．５℃の目標は非常に野心的な水準であり、その達成には革新的な技術開発が不可欠である。長期目標の達成に向けて、気候変動対策を強力に進めていくことは必要であるものの、足元の技術水準、エネルギー・経済状況を見据えて現実的な対策を着実に積み重ね、そのうえで革新的な技術開発に取り組む必要があると考える。特に技術開発には多くの資金を要するため経済成長が不可欠であり、特に環境と経済の両立した社会を構築していくことを望む。
W219	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	実際の異常気象に直面し、人々の意識では危機感を持っているが、実際の行動に移すことがなかなかできない。 または、個人レベルでは意識の個人差が激しい。法的な規制を整える事によって、企業もCSR部門が環境問題に取り組んでいるが、経済活動の前に推進力は弱いと感じている。意識や法整備など、思いや机上での改善の兆しは感じるが、実際に全体的に問題に取り組んで行動に表れているかというと疑問です。これらの基準をどこに置くかで答えが変わってきてしまうので、アンケートでの回答の時に大いに迷います。
W191	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	9.社会、経済と環境	建前ではなく、実のある活動が広く行われる必要があり、「足るを知る」ことが重要である。
W236	坪内　俊憲	アジア	日本	大学研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	人類は他の生物に支えられて生存できているにも関わらず、ほとんどの人はその事実を意識していない。なので、身近な環境の破壊以外に無関心である。その無関心、無意識が他国における経済行為に利用する資源収奪を起こし、結果、地球全体として生物多様性の減少、生態系の破壊が急激に進んでいる。途上国と呼ばれる国々の社会と生態系の破壊を自国の経済発展のために利用する先進国が無意識である限り、政策は変わり得ず、我々人類を支えてくれてきた生物多様性は減少し続けていくであろう。
W195	岸　道郎	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	アメリカの大統領が全く意に介していない。
W196	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	確実に分かっている原因がありながら、それに対する対応が進んでいない。問題を先送りしている状態が続いている。
W200	原田　博之	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 10.その他	日本では、世に言う典型的な7公害(大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・地盤沈下・振動・騒音・悪臭)の他に、地震に伴う原発事故による放射能汚染が問題になっています。即ち、日本には典型的な8公害になっていることを明記すべきであろう。その他、 日本は、海洋汚染源のマイクロプラスチック類の排出国であり、早急に対策を立てるべきである。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W237	徳永　哲也	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 6.人口	もっと思い切った政策制度を打ち出せば市民は応じると思う。東日本大震災・福島原発事故のあとの原子力分の省エネ実績を見ても特にそう思う。「発電量が減ったら消費者が困るでしょう」というのは電力会社側の勝手な抗弁に過ぎない。電力以外の環境対策についても、少なくとも先進諸国内においては、強く政策化すべきである。例えば、「3年以内にプラスティックストローは禁止」とはっきり決めれば、消費者はそれに上手に合わせると思う。
W203	冨板　和夫	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	世界的な天候不順、地球上に何らかの変化が起きているとしかおもえない。 世界各国の政治体制が自国中心的に変化し、世界的に人類のことを考える、影響力を持った人材がいなくなった。
W204	山本　晴稔	アジア	日本	その他	70代以上	6.人口	人口問題に関しては、開発途上国においては指導者に国民を啓発する意欲が感じられず、国民にも打開するため意欲があまり感じられない。 飢えに苦しむ子供たちがいることは承知しているが、先進国の支援によって解決を図るのではなく、自助努力を図ろうとしなければ永久に問題は解決しないと考える。
W205	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	化学物質による環境汚染等に生物多様性が低下している。つくば市に住んでいるが、近くの河川には、メダカや在来の水草はなくなり、アメリカザリガニやオオカナダモ等の外来の動植物しか確認できない。
W206	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	毎年、同じような回答をしているように記憶していますが、天候の異変による気温の上昇とそれによる災害の発生、及び生物の生態系の変化 等が現象として増加している様に見受けられる。従って、地球温暖化対策は世界各国が協調し進めなければならないと考えています。
W208	小池　康郎	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	昨年の西日本大豪雨や巨大台風は異常気象だ。人為的起源かどうか、マスコミの報道、人々の反応では、その認識は見られなかった。 CO2による地球温暖化は、人為的な環境破壊との認識が定着している。しかし人々の実感となっているか？ ゲリラ豪雨が人為的な環境破壊と気象学者も認める。東京の人は実感するだろう。それは近年多発する。だが長野・静岡・山梨などの地域の人はそれはないと言う。ゲリラ豪雨は都市での環境破壊である。その大きな原因としてヒートアイランドがある。都市部の温度が近年上昇している。昔東京でも見られた冬のつららは、若い人は見たこともないだろう。 海にもヒートアイランドがある。国立天文台が毎年発行する環境年表によれば、日本近海の海水温は、この百年で1度前後上昇している。特に九州から関東に至る太平洋で、1.21℃上昇している。海水温の上昇は台風の勢力に影響を与えるだろう。台風は南の海域で発生し発達する。日本に近づく台風は近年勢力が衰えない。 海水温上昇の原因は科学的に解明されなければならないが、最も有力な仮説は、火力発電と原発の冷却の問題と思われる。日本では火力発電の平均効率は40％であり、また原発は33％である。残りは熱として海に廃棄されることは熱力学の法則が示す。莫大な電力を消費する現代社会の、負の側面が海水温上昇である。海水温上昇でサンマなどの回遊魚が近海から逃げていく。 火力発電や原発は、産業革命の結果である。産業革命は人類の歴史を決定的に進めた。これは間違いなく評価されるべきである。しかし現代ではその問題点が蓄積されている。 悠久で莫大なエネルギーを誇る太陽エネルギーを起源とする自然エネルギーで、人類は新たな輝かしい時代を築くだろう。現代は人類存亡の危機でもあるが、永続的な人類と地球環境の関係の、新たなる始まりの可能性の時代でもある。 永続的な輝かしい未来社会を築くには、日本伝統文化が大きな貢献をするだろう。日本の近代化にあって、自然エネルギーでの産業革命を計画した人がおり、地域住民が協力して達成された事業があった。琵琶湖疏水である。琵琶湖疏水は人類滅亡のカウントダウンを、幸福で永続的な人類社会の建設へ向けてのカウントダウンへと変換する偉大な事業だった。
W209	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動	米中の政治的動きによって気候変動への取り組みは確実に後退したと思われます。 ベネズエラの混乱やブラジルの新体制で南米地域の環境保全も心配です。
W238	森　治文	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	5.水資源 7.食糧	年間の資源再生量を使い果たす「オーバーシュートデー」が年々早まっている危機感をもっと共有すべきだ。ＳＤＧsの目標達成で地球が救われるような幻想を多くの人々が抱いてないだろうか。温室効果ガスや生物多様性、プラスチック汚染などの問題はすべて、根っこではつながっている。ライフスタイルや企業活動を根本的に見直すことを今すぐ始めなければならない。もう手遅れかもしれないが。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W216	伊藤　一道	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染)	フェイクニュースに代表されるように、ネット上の情報が氾濫しており、多くの人が正しい情報にアクセスすることが極めて困難になっている。 気候変動問題も311以降、日本国内では極めて議論が低調になり、再生可能エネルギーですべてが解決されるかのような理解あるいは無関心化が広がっている懸念を感じる。 市民の間に危機意識が共有されなければ政策的優先度が高まらず結果として人類社会の持続性への重大な結果を招きかねない。 ファクトの説明、その中では特に「難しくない分かりやすい説明」とともに、「とんでも学説への反論」を力強く・しっかりとした組織が表に立っておこなうべき。 その上で将来を担う若い世代への教育・普及のみならず、政策決定に強い影響を与えている高齢者世代にも理解を広げるような活動をしっかり行わなければならないと考える。少子高齢化時代の政策決定の中では、高齢者世代の理解が得られない政策は優先度が高まらない。
W241	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動	最近の異常気象には恐怖さえ感じる。なのに、人々の意識が一向に変わらないことが、もどかしい。一人ひとりの行為の積み重ねが、世の中を変える力になることを、早く気づいてほしい。微力ながら、温暖化防止活動に関わっているが、諦めずに続けようと思う。
W220	高見　邦雄	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動	過去一年にも自然災害が多発した。
W223	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口	世界の人口急増に伴う食料問題や気候変動などそれぞれが関連しているが，利害関係が強く働き世界的な取組が遅れていると感じる．
W225	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧 9.社会、経済と環境	何事も先行きが不透明で、不安である。広い視野や長期的な観点から物事を考えその解決に取り組むというよりも、目の前の事しか考えられないし、考えないという状況にあると思います。
W227	岡田　泰聿	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	世界は、GHG排出抑制と削減のための「パリ協定」締結と「SDGｓ」国際合意を両輪に協調し始めているが、「パリ協定」を離脱した米国が早く協定へ復帰するよう日本を含む各国は強く働き掛ける必要がある。「パリ協定」では、日本は4月23日に政府の長期戦略案を公表したが、GHG排出ゼロの時期も曖昧で、脱石炭も明記できず、カーボンプライシング導入にも踏込んでいない。日本政府は6月のG20までに決定する予定だが、その諮問会議検討過程は非公開で議事要旨もなく遺憾である。このままではG20で日本が温暖化対策で世界をリードするなど無理ではないか。「SDGｓ」では日本は昨年12月のSDGs推進本部会合で決定した「アクションプラン」で「地方創生」，「Society 5.0推進」，「次世代・女性のエンパワーメント」を柱とし，G20大阪サミットや9月のSDGs首脳級会合等で積極的に発信していくとしているが，昨年7月時点で世界のSDGｓ達成度ランキングで、日本は156カ国中15位と、一昨年より順位を４つ下げた。要因は、ジェンダー平等や気候変動対策、漁業資源管理への取組みの遅さとされる。それぞれの項目の種々の課題を具体的、精力的に処理していく必要がある。その他として例年指摘してきたことだが、世界の温暖化対策で「軍事分野」が聖域になっている。軍事分野で排出するGHGは平時でも民生分野に比して桁違いに大きく、戦時には戦闘で油田、建物、都市等を大量破壊し、総合した排出量は一気にに増大する。「戦争の世紀」だった20 世紀の100 年間に、世界のGHG濃度は飛躍的に増大し地球平均気温も急上昇した。戦後の世界は政府間で世界の軍縮に取組み、日本も大きな役割を担ってきたが、今後はIPCC 等の国際気候変動機関に、世界が協調して軍事分野のGHG 排出量把握と削減を検討して温暖化対策の一環に組込むよう呼びかけていく必要がある。温暖化が進行すれば、気候変動で世界各地での食料飢饉、水飢饉が発生し、世界規模での食料難民、水飢饉難民が頻発して、新たな国際紛争の火種となることも予測される。これからの世界は世紀を俯瞰する長期視点に立ち、グローバルな観点から、界際を超え、軍事分野を含む聖域のない温暖化対策を検討すべきである。これこそが温暖化対策で世界の政治が果すべき最大の課題ではないか。日本はその音頭を取る資格が十分ある
W229	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	運動論的な取り組みは、方向性として環境問題の解決方向に遅々としてはいるものの進んでいると 認識します。ただし、メディアの情報も含めて的確かつ正確な情報共有に向けた取り組みが不十分な現状にあると思われます。
W232	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	5.水資源	気候変動に伴い多くの国で水資源が不足することもしくは洪水が発生することが想定されており、それに十分対応できているとは思えない。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W233	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧	わが国の例を見ても、気候変動、特に温度上昇は着実に進展していると思います。気候変動により、２～５、７は劣化が進んでいると思います。
W242	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル	森林伐採、地球規模での人口増加、気候変動による異常気象の多発、資源・エネルギーの消費増大、廃棄物の増加、農業生産量・漁業資源量の減少、自然災害の増加といった地球環境悪化の動きが続いており、危機的状況にあると考えます。一人一人のライフスタイル、価値観を変えてゆくことが必要です。
W255	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	40代	1.気候変動	自然エネルギーのコストダウンなど、市場の動きが政策よりも先行するようになっている。パリ協定はできたものの、方向感がまだ定まっていない。
W239	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	対応に時間の掛け過ぎ。
W240	郡嶌　孝	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境 10.その他	循環経済の構築。プラスチックの海洋汚染が進行している中、廃棄物政策の貧困により、焼却・埋め立てからの脱却が遅れている。プラスチックの中国への輸出が禁止されると国内に保管されているものを「緊急避難」と称し、海外ではリサイクルより優先順位が低い「エネルギー・リカバリー」を「サーマル・リサイクル」と称して、焼却するその場しのぎの場当たり的対応。せめて、「貯蔵」のコンセプトを導入し、リサイクル技術の開発を待つといった循環経済の構築に向けて前向きの対策を取るべき。廃棄物政策における「使い捨て」を助長・延命する「焼却・埋め立て」からの脱却が必要。
W257	伊藤　優	アジア	日本	大学研究機関	40代	9.社会、経済と環境	地球環境問題に関しては、ここ20年の取り組みで一定の成果をあげて来たと思う。特に、アジアやアフリカ諸国の経済躍進は、高度成長期特有の問題はあるものの、長期的には貧困問題も解決に向かい、人口増加率も抑制傾向になるので良い方向に向かっていると思う。 そこでこれからは、世界的に多様性を互いに認め合う社会システムの構築がより重要となると考えている。「自然は多様性を好むが、残念ながら社会は多様性を嫌う。」というDiamond教授の言葉があるが、異質な（と多数者が思い込んでいる）ものに対する非寛容な社会が2019年現在も世界中にたくさん残されている。女性の地位の問題や、人種、民族の問題、貧困層など他分野に渡る。これには日本での女性の管理職への登用率の低さ、ＬＧＢＴ対策や同性婚に関する立法の遅延、児童虐待問題・ＤＶ問題・いじめ問題・ヘイトスピーチ問題・貧困家庭問題の未解決も当然含まれる。 今後、より寛容で誰もが自由に安全に清潔に暮らせる世界を実現する社会システムの構築を、地球環境問題の一部と捉え、より注力すべき時が来ているのかもしれない。
W243	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	10.その他	地球環境の変化を示す項目はこのままでいいのか。再検討の必要はないか。
W244	横田　弘幸	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	日本人として日本列島の気候の変化に衝撃を受ける日々。先進諸国の気象が今後、急激に悪化する中で、ようやく世界は動き出すのだろうか。大変に不安に思う。
W245	藤原　勇彦	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動	日本周辺では、10年以上前から、漁業における対象魚種の変化が著しかった。気候変動は、目に見えない海中から始まっていた。今、変化は陸上で目に見えるようになり、気温や豪雨、暴風が、毎年「観測史上初」を記録している。本当に実効性のある気候変動対策が求められる時、世界の政治的情勢は、あるいは民心の動向は、自国ないし自分ファーストに傾き、一部を除き改善の兆しは遠い。SDGsの掛け声さえも、その利用のされ方に首をかしげざるを得ないケースもある。
W246	[-]	アジア	日本	中央政府	40代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	気候変動そのものや、脱炭素化に乗り遅れることが経済的・社会的にリスクであることの認識が薄い。脱炭素化に関して経済・社会・制度等に改善の動きはみられるものの、世界の動きに比べて遅いことに危機感を覚える。併せて一般消費者の意識向上も必須。一般消費者の意識が変わってくると、企業もより真剣に脱炭素化に取り組まざるを得ないのでは。金融面ではすでにそうした動きがみられ、さらなる加速化が期待されるところ。
W247	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	基本的に人間の生活を便利にすることで排出される温暖化ガスや廃棄物による環境変化を今後100年～1000年レベルでどう抑制するかが課題であり、人間の生活自体を見直す必要がある。
W249	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	SDGsで謳われている持続性を担保するうえで、環境の持続性への配慮が最優先されるべきなのに、経済面などと横並びの関係でとらえられるなど、実効性の伴う政策が実施されているとはいいがたく感じる。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W250	[-]	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	日本でも竜巻や突然の雷雨など多くなった。今年５月の異常気温、昨年。１昨年の異常豪雨など確実に温暖化の影響は出ていると思う。また豊かな生活を享受して気が付いた時には自然界に循環しないマイクロプラスティックの問題などマイナス項目が確実に表れ、地球環境悪化を加速させている。日本も早く自然エネルギー１００％の政策を打ち出してほしい。
W251	石井　徹	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧	気候変動の原因となっている人間活動は、生物多様性の喪失、森林や土壌の劣化、化学物質汚染などによって、人間の居住に適した地球環境の回復力の極端な低下を招いている。項目としては気候変動に含まれるのかもしれないが、海水温の上昇や酸性化、海洋生物の多様性の喪失、プラスチックごみなど、海洋の変化も人類存続の重大な危機だと認識している。
W252	佐竹　敬久	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	世界の状況と同様に、本件においても平均気温の上昇が続いている状況にあり、夏季の猛暑、強烈な台風、大雨による洪水・土砂災害、冬季の大雪による被害発生など、気候変動について身をもって感じている。このまま地球温暖化が進行した場合、こうした自然災害の増加に加え、豊かで美しい自然環境や生態系への悪影響等が懸念される。この原因である温室効果ガスは、私たちの生活や事業活動から発生していることを踏まえ、行政はもとより、事業者や住民一人ひとりが責務を認識し、温室効果ガスの削減に努めることが大切であると考える。
W253	三橋　規宏	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	米トランプ大統領の登場によって、地球温暖化対策は後退している。米国のパリ協定離脱、米国内の石炭エネルギー規制の 緩和など。
W254	千代　慎一	アジア	日本	その他	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球温暖化の影響が深刻さを増す中で、日本政府の真剣度が伝わってこない。経済界も全てとは言えないまでも、経済優先の姿勢を変えていない。そして私たち国民も同じ穴のムジナか？
W256	[-]	アジア	日本	企業	50代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性という言葉は2010年台前半に比べて定着してきているとかなり周知度が増してきているが、その概念が正しく理解され、効果的な対策が打たれているかというと十分ではないと思います。 また企業が事業活動の中での取り組みや、個人の意識・行動の変化移行についても十分ではないと思います。 一つの方法として生態系サービスによる自然資源定量評価があるのでしょうが、例えば身近な生き物の減少（例えばスズメの生息域の減少）などの生物多様性の喪失が過小評価されるのではないかなどの課題があるように思います。 気候変動など地球規模での変化だけでなくライフスタイルの変化による局所的な変化（里山放棄や開発途上国での経済生活の進展による希少種へ採取圧の増加など）が生物多様性に与える影響を評価し、対策をとっていくことが全地球的に必要になっていると思います。 しかし、非常に難しい問題だと思います。
W267	[-]	アジア	日本	企業	60代	4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	プラスチックごみによる海洋汚染の進行が報道などにより問題視されているが、深海魚などへの影響さえいわれる現状は極めて深刻であると考える。汚染防止の国際的な取り組みを盛り上げていくのはもちろんだろうが、画期的な処理方法の開発も期待したい。 　温暖化対策として化石燃料に代わるエネルギー源に原発を推進することは間違っていると考える。世界的な脱原発への政策変換が望まれる。同時に非核化への取り組みだ。紛争地域での核兵器の拡散が懸念される現状は何とも救いがたい。 　地球環境の危機的状況は深刻化の一途と考えざるを得ない。
W259	[-]	アジア	日本	企業	60代	9.社会、経済と環境	環境問題と経済成長の両立のためのイノベーションが進んでいない。特に日本の研究開発力が格段に落ちていることに危惧を抱く。
W260	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧 9.社会、経済と環境	温暖化時系列は2015年のエルニーニョで上昇しましたが、2019年には元に戻りました。気候予測モデルによる温暖化予測は過大評価であると判断できると思われます。是非、正しくチューニングし直して、研究費に惑わされない正直な予測結果を提示してください。100年で１℃程度の上昇になるのではないでしょうか。
W261	鈴木　道彦	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	8.ライフスタイル	AI,ロボティックス、通信などの急激な技術進歩により、我々のライフスタイルを大きく見直す必要が生じている。不要不急な物流の小刻みな配送、過剰な生産と在庫、廃棄（特に食料品および衣料品）そしてその過剰な包装、コンビニなど商店の不要な長時間営業、などは大局的な見地に立ち、もう一度考えてみる必要がある。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
W262	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口	日本については、人口減少と高齢化によって、環境への圧力は現状維持か弱まると予想する。一方、地球環境への最大の脅威は中国の経済成長である。特異な政治経済体制で言論の自由も制限された国が、世界第一の経済大国となって、地球資源の過半を食いつぶそうとしている。東南アジア、南アジア、中央アジア、アフリカにかけての中国の無軌道な経済進出、さらには軍拡が地球環境に甚大な影響をもたらすことを深刻に懸念する。勿論、米国も問題である。象、虎、ライオンなどの野生生物の生息域は狭まり、早晩（多分、数十年内に）、動物園でしか見られなくなるであろう。日本は、人口が減少するなかで、ゼロ成長で十分である。過疎化する地域の土地と自然資本（自然エネルギーと生態系）を活用することによって、真に持続可能な社会経済モデルを構築し、これを世界に示すべきである。
W263	今井　通子	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口	気候変動は、寒暖差が対極化し、増々荒々しくなり、脱炭素の影響で太陽電池パネルに土地を奪われ、北朝鮮、その他地球環境問題よりテロデロ等々結果人類が新たに地球環境破壊を来している現在、日本では高齢化、人口減で生物多様性が戻りつつある。
W266	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動への対応は緊急の課題であるが、以前ほど一般人の意識も高くなく、エネルギー政策も進んでいない。
W268	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	8.ライフスタイル	地球全体の環境の危機に関する情報、研究や報道は確実に増えているものの、それらを踏まえ具体的なアクションを起こしている者が圧倒的に少ない。プラスティックごみの大量発生や海洋汚染の問題が報道されても、一部の関係者の間にとどまっている印象を受ける。多くの人はコンビニのレジ袋使用を控えるなどのちょっとした行動にも至っていない。関心のない者への訴求が重要、同じメッセージを粘り強く伝え続けることも大事であるけれど、場合によってはより強烈なメッセージに変える必要があるのかもしれない。
W269	磯部　作	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	地球温暖化が進行している中で、近年、海水温が上昇し、豪雨災害などが急激に増加してきており、重大な問題になってきているため、脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素の排出量の多いエネルギー転換や産業、運輸部門での排出削減対策を行っていく必要がある。とりわけ二酸化炭素の排出量の多い石炭火力発電所などは廃止していくべきであり、自然再生可能エネルギーの活用を拡大していくことが重要である。 　また、石油化学製品であるプラスチックなどによる海ゴミ問題が深刻になってきており、環境や漁業などに悪影響を与えている。海ゴミ問題については、近年その対策が行われだしたが、まだ非常に不十分である。石油化学製品であるプラスチックの使用を大幅に削減していくことは、温暖化防止にも繋がるのである。
W271	増井　利彦	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	パリ協定やIPCCの1.5°C特別報告書など、気候変動問題について盛り上がりの見られた時機も一時的にはあったが、日本では人々の意識や政策、制度を大きく動かすまでには至っていない。日本でも長期戦略が議論され、案が提示されたが、残念ながらこれまで既に議論されてきた長期ビジョンを超えるものではなく、具体的にどのように実現するのかを示したものとはなっていない。一方で、スウェーデンの15歳の少女がはじめた「Fridays For Future」という気候変動対策を求める運動が世界に広がり、日本でも若い世代が声をあげるようになっている。誰かがやってくれるだろうという受け身の姿勢ではなく、正しい情報をもとに能動的に自分の問題として考え、議論し、行動に移そうとする若者が出てきたことは明るい兆しである。2050年の社会の主役は、こうした若者である。若い世代の声に耳を傾け、応えていくことで、環境危機時計の針を戻すことができると考えている。
W272	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動	集中豪雨、異常高温など、日本でも気候の変動が心配である。
W273	西川　榮一	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	地球規模の環境問題は、全世界の国家・地域のＧＯ、ＮＧＯの協同協力なしには解決できない。少なくとも温暖化問題に関しては、自他の比較損得勘定に基づいた駆け引き外交ではなく、IPCCの敵に基づいた必要とされる目標を立て、それを達成するための方策をもって、国際論議に臨むべきだと思う。
W275	[-]	アジア	日本	その他	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	企業は様々な規制や投資家の視点等により、一定程度の強制力を持って環境問題に取り組まざるを得ない状況におかれるようになっているが、個人レベルでは、心がけ、というレベルにとどまる程度のしくみだったり、そもそも情報が不足しているように思う。個人レベルでの取り組みが重要な領域も存在すると思われるが、そのあたりが共有化されていないように思う。
J001	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代		研究者・教育者として、SDG's について、積極的に関与していかなくてはならないと痛感しております。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
J002	二宮　洸三	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	●地球環境問題の諸項目（生物多様性、土地利用、環境汚染、水資源、人口、食糧、気候温暖化）は独立した問題ではなく相互に関連している。諸問題の共通的・根源的な原因は一部の政治的・経済的権力の我欲と非現実的な経済的発展の追求にある。 ●実質的な生活水準の向上の必要はまだ残っているが、経済的先進地域では、利益追求の目的のために経済発展を図り、実質的生活水準の改善に役立たない経済活動の拡充により、資源を浪費し、環境を破壊し、各地域・各階層間の格差を増大させている。 ●各問題についての個別的対応も必要だが、上記の基本的問題について議論を深め対応を取ることがなければ、何も改善されない。
J003	原　剛	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 7.食糧 8.ライフスタイル	希望と絶望があざなえる縄のように交錯している。おそらく不可逆変化は悪化の方向へ展開している。凶作、原発事故のような破滅を体験、そこからの再起が問われよう。
J004	早川　洋行	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	環境教育が退潮しているように思います。
J005	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル	一般の人々の意識が薄い。
J007	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	9.社会、経済と環境	一般の多くの人が、真に物事の考え方を理解しなければ進まないと思います。
J011	田中　泰義	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動	1.5度目標は野心的で評価する。だが、現実社会が十分対応しておらず、市民の意識も不十分。1.5度の理念だけ先行し、目標（国際合意）が形骸化するのを心配する。
J012	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	Anthropoceneの時代にtippinng pointにいる人類にとって、再生可能エネルギーを軸とした協働型コモンで（Collaborative Commons)対策は急務である。
J013	岩坂　泰信	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	問題の本質的な所は、人間の自然理解の仕方（そしてその理解に基づいて作られた社会）のように思うようになっている。気候変動あるいは地球温暖化を示すインジゲーターが目に見えやすい形のものが多い(自然科学の発展のためか）ので、即、それに対応となるのだが、どうもその裏、その奥を考えた提示、提案がしっかりなされる必要を感じるようになった。
J014	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	世界共通の課題である気候変動対策やSDGsについては、様々な特例を作り、国内外で取り組むべきと考える。
J015	勝田　悟	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	グリーンファイナンス関連の進展で改善が図られているが、金融関係者に、コモンズに関する理解があるとは思われない。秩序を持たせるための方策を早急に行う（政策）必要がある。
J016	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	10.その他	調査が主観的で量的指標に基づいたものではないので、人によって回答のばらつきが多く出そうな気がします。
J017	橋本　孝明	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	8.ライフスタイル	ライフスタイルを産業革命以前に戻すことは困難であるにしても、現在のように便利さ、快適さを追求することはやめにしたい。これは、政府、産業界にも猛省を促したい点である。
J018	前　章裕	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	60代	6.人口	根本にある人口問題を途上国への配慮から手付かずで放置しているように思います。
J019	町田　光	アジア	日本	その他	70代以上		人々の意識、政策・資金ないし環境技術の開発面から、現状ではパリ協定の目標達成は極めて困難。気候変動の動向（南、北極の氷の融解、著しい気候変動等）を認識し、ライフスタイルの変更（資源多消費を止めること）が必要と考えています。
J020	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	気候変動に関して、国連環境計画の2018年版「排出ギャップ報告書」の中で、2017年度の世界のCO2排出量が4年ぶりに1.2％増加したと説明している。米国トランプ大統領を筆頭に、本音では自国の経済問題を優先し、気候変動に取り組む動きが各国に見られることに、大きな懸念を抱いています。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
J021	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用)	近年、局所的な集中豪雨による災害が増えている気がします。今、我々にできることは、短期的には成果を出せない地道なことだけです。人は早い成果を望むものですから、目覚ましい技術革新がないと問題解決に至らないかもと心配しています。
J024	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	気候変動とCO2濃度、海洋プラスチックと生態系被害など、世界潮流の中にあっても科学的因果関係を明確にする取り組みも必要と思う。
J025	[-]	アジア	日本	大学研究機関	30代	6.人口 8.ライフスタイル	人口が多過ぎ、またそれぞれが物質的な豊かさを求めすぎていることが問題である。
J026	前畑　進	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動 7.食糧 9.社会、経済と環境	地球は天体のひとつとして寸分も狂わず動いています。その地球の中で、我々人間は多くの恩恵を受けて生きています。地球に感謝して日々を送る謙虚さ・・・。このような心の問題が、地球環境の課題を解決する基本になりましょう。
J027	横山　直史	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	パリ協定の数値が決定されているのにもかかわらず、余りにも具体化する戦略、戦術に取りかかろうとしていない。このままでは我国は、地球環境無関心国と世界の人々から見られても反論出来ない。
J028	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動	日本の国の政策の遅れを感じる。経済政策優先で、相変わらず石油・石炭の火力発電を進めている。世界に相反する流れであり、大きな問題だ。
J029	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性)	①各国の生物種の維持について、それぞれの国の考え方や事情により、いろいろな状況にある。 ②日本では、外来の種の輸入がかなりゆるいので、それらが郊外で増えて、外来種対策が大きな課題となっている。
J030	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	中長期的な視点からの政策が日本は不十分である。特にエネルギー政策は、世界の潮流に逆行しているのではないかとの危惧を抱いている。
J031	田﨑　和江	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 9.社会、経済と環境	（問1について）毎回思うのですが、この意味（意義）が理解できません 福島原発事故処理について、フレコンバックの処理、耐久性、森林汚染、ダム・貯水池の上かは全く手つかず！海洋への汚染水の放出はダメ！！オリンピックは本当に大丈夫ですか？
J032	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル	個人1人1人が身の回りを見直してライフスタイルを少しでもシンプルにし、寒いときには1枚余分は着物をはおるようにするなど、できることから始めるべきである。
J033	岩田　助和	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	大気中CO2濃度対策は、アメリカ、中国、インドでの野心的な改善策が進まない限り、増加の一途をたどるだろう。
J036	西川　智	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源 7.食糧	人間が使える一人当たりの水資源は確実に減少している。このことが食糧生産に影響し、また食糧増産が水資源のひっぱくを起こす。さらに気候変動が食料生産と水資源に好ましくない影響を及ぼすという相互関係が今後注目すべき問題である。
J037	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	夏場の渇水や豪雨・洪水といった異常気象が身近に迫っていることに、人々は気づき始めてはいるものの、私たちの生活、事業活動が大気中の二酸化炭素濃度の上昇、延いては急激な気候変動を招いていることにあまりにも長く目を背け続けているのではないか。経済や国益が優先され、ライフスタイルの転換への忌避が見られるなど、対策を講じる必要性を気にし始めてはいても、行動にはまだ結びついていないと思われる。
J038	[-]	アジア	日本	企業	30代		地球環境問題が深刻化するスピードに対し、取り組みが全く追いついていないように感じる。
J039	田口　正己	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	危機意識が依然として弱い。特に政治リーダーに目立つ。深刻である。
J040	近藤　三雄	アジア	日本	その他	70代以上		馬齢を重ねてようやく解ってきたことは、地球環境問題の取り組みはすべからく政治、政治家の意識の問題にある種、帰結する。日本の政治家諸氏の地球環境問題への意識、知識は年々低下していることが最大の危機。危機時計で言えば11時00分。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
J042	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	「複雑系科学の立場からみた地球環境問題」今日までの代表的な科学のパラダイムシフト（科学革命）として、十七世紀前半の①デカルトによる二次元直交座標の考案、十七世紀後半の②ニュートン力学（万有引力の法則）の発見、そして二十世紀前半の③アインシュタインによる質量・エネルギー・光の相互関係を明らかにした相対性理論と④プランク・アインシュタイン・ボーアを開祖とする素粒子の世界を探求する量子論と量子力学の誕生、が挙げられる。さらに二十世紀末には⑤複雑系科学の黎明期を迎えた。ある「非平衡秩序（カオス）状態」から別の非平衡秩序状態への「不可逆な相転移」が起こると、これに伴って様々な「対称性の破れ」が観察される。今日では、自然科学や社会科学の各分野で日常的に見られる多くの現象が、この「相転移と対称性の破れ」を鍵プロセスとする「複雑系科学現象」として理解されている。典型例として、一三八億年前に起こったとされる宇宙の誕生と急激な超高温膨張、そしてビッグバン後の素粒子や物質の生成も、相対性理論・量子論的な空（ゼロ）状態からの度重なる「相転移とそれに伴う対称性の破れ」によって説明されている。したがって、複雑系科学は宇宙創成の根本原理と言っても過言ではない。太陽系の一惑星である地球の環境問題も複雑系科学現象として説明できる。この場合、「非平衡秩序状態間の不可逆な相転移が起こる」ということは、地球環境の大変異を意味する。オゾン層破壊や温暖化などの地球環境問題が危惧されてからまだ五十年も経過していないが、今日ではこの大変異が現実の事態となりつつある。すなわち、生物界にとって不都合な相転移が起こる可能性がきわめて高くなっている。その前兆として二十一世紀に入ってからは、度重なる大地震の発生とともに、大型低気圧（台風・インド洋のサイクロン・カリブ海のハリケーン）の発生やゲリラ豪雨による河川の氾濫、および乾燥地帯での大規模火災の発生など、前世紀までは偶然と考えられていた異常気象が頻繁に見られるようになった。「天災は忘れた頃にやって来る」（寺田寅彦・中谷宇吉郎）と言われていたのは過去のことである。地球は四十五億年の長きにわたって内部でゆっくりとした核分裂を起こし続けてきた超大型の原子炉であり、絶えず地殻にエネルギーを供給し続けている。これが臨界状態を超えると相転移として地殻変動が起こり、火山噴火や大地震として甚大な災害をもたらす。つまり、地球は地殻構造転移という名の相転移が周期的に起こる宿命を負っている。今日では、この周期的な相転移については、GPS（全地球測位システム）を導入した観測により、ある程度の予測が可能となってきたが、防ぎようがない。また、地球を取り巻く大気海洋環境に限って言えば、熱力学第二法則（エントロピー増大の法則）が適用される閉鎖平衡系ではなく、地球に太陽光が燦々と降り注いで絶えずエネルギーが注入されているため、開放型非平衡複雑系に属する。そのため、地球温暖化と密接に関連する大気圏の水蒸気濃度は人類の生産活動の影響を受ける。その濃度がある一定値以下に保たれている限りは生物界を育む温和な環境を維持できる。しかし、炭酸ガス濃度の急上昇は、世界の平均気温を産業革命前より1.1度上昇させ、陸地や海洋の自然生態系がこれまでの均衡状態を保とうとする回復力を失わせつつある。すなわち、光合成生物の激減による酸素の減少と炭酸ガスの増加が深刻な地球温暖化をもたらすことになる。今後、大気圏の温暖化に歯止めがかからずに、自然生態系が完全に回復力を失うようなことになれば、「地球の限界（プラネタリーバウンダリー）」を超えた致命的な相転移が起こり、地球は現状とは比べようもない苛酷な原始地球（大気の主成分は窒素ガスと炭酸ガス）に近い状態に後戻りする可能性もある。
J047	和田　英太郎	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル	1.について、このまま悪化すると思われる。 8.ライフスタイルを変えることから始めるべき。項目8,9を重点的に改善して行くことから始めることが現実的である。
J050	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	SDGSに関してマスコミや政財界が声を上げているように見えるが、人々の意識やこれを支える制度、事業などの進捗は極めて遅れていると思う。私の子の世代が心配である。
J051	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 7.食糧	気候変動が制御困難となる可能性が大きく、他の項目（2,7,5等）に大きな影響を与えることを危惧する。
J052	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	一般市民の意識の方が環境について理解しているように思われる。環境に関する教育やアナウンスが行き渡りつつあることを示している。一方で、政治を司る人々は利害にとらわれ遅々として進んでいない。
J053	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	地球環境問題に対する危機感は、マスコミ等でも取り上げられ感じられるが、実質的な対応策がはかられていない項目があるように思われる。
J055	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	世界が平和でないと、地球環境問題も解決の方向へは進まない。
J057	森田　知都子	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	災害を引き起こす要因となる気候変動は、すべてに影響、そのためにはエネルギー政策の転換、先進国のライフスタイルの変革、循環経済への移行が急務。経済成長大前提の先進国の活動を見直すことが重要。
J059	大森　正之	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	欧州の若い人々の年長世代への危機感の表明に希望があると思われる。
J060	寺畑　建雄	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	温室効果ガスの上昇を押さえれば海面上昇が防げるのかは、データ不足のため確定できないが、産業革命以降年間3-4mmの上昇が見られる。とにかく温室効果ガス排出量を押さえる努力をするしかない。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
J061	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代		アジェンダ21から30年が近づくなか、地球環境問題という言葉を一般化して社会の認識も進んだと思われるが、減少と原因の関係が判り難く、社会病理的側面も強いため、決定的な改善への方策に踏み込めていないと感じる。
J062	山田　和司	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動、生物圏保全性等に対する一般の人々の意識は高くなってきているが、個々人の行動へとつながっていない。ライフスタイルの変換を含めた直接行動へのキッカケ作りが必要。
J063	西田　益温	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 6.人口 8.ライフスタイル	原子力利用の大問題（発電、兵器他）、少子高齢化の人口問題、都市の人口集中と過疎地の問題、異常気象と地震等の防災対策。
J064	大久保　忠旦	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧 9.社会、経済と環境	現政権になってから一層悪化しているが、基礎研究や企業収益貢献に直ぐに結びつかない研究の為の研究費（国・公立大）が著しく少なくなっている。"20年～30年後は、アジア圏からのノーベル賞は中国だけになる"とは、研究者仲間の嘆きである。
J065	与五沢　和良	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	地球温暖化による気象災害の頻発と巨大化が、以前から研究者により指摘されてきた。近年、台風やハリケーンの規模の増大などを見るにつけても、この指摘が現実のものとなってきた。 温暖化対策として、CO2を出す石炭火力などの化石燃料依存から環境に優しい自然エネルギーへの回帰。また、コントロール出来ない原子力発電に依存する旧態からの脱皮。これらを踏まえ政策の立案と法整備の対応が必要。
J066	笠井　高芳	アジア	日本	その他	70代以上	8.ライフスタイル	エネルギー、食料、天然資源の大量消費を可能な限り抑制すること。
J069	梅崎　輝尚	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	環境問題に対する人々の意識は高まり、いろいろな面で改善されつつあるが、一般論は賛成ながら、個人や各論となると、さほど積極的な活動につながっていない。
J071	大串　信昌	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 7.食糧	近年の気候変動による災害は、その数も規模も甚大なものになりつつあるが、その根源は温暖化等、人の活動によるものが大きく作用しており、地球の危機となりつつある。我が国をはじめ、各国はこのことを人類生存のための世界共通の課題として、その対策を早急に行う必要がある。
J072	武井　幸久	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動 6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	人口の安定化（淘汰）と高齢化（長寿命化）に伴い、高齢者の役割の重要性が増している。地球環境は「子孫からの預かりもの」というアメリカインディアンの意識を前提として、再生可能な資源の活用と教育ということに重点を置いた政策、施策が必要である。格差の是正をも見据えた地球人としてのライフスタイルの明確化を検討すべきである。
J075	[-]	アジア	日本	[-]	70代以上	1.気候変動 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	働き方改革ではなく、生き方改革が求められている。大量消費など欲望の解放ではなく、人間（各人固有の潜在能力）の解放を保す文明への転換が求められている。その手段として、情報革命やAI技術を生かさねばいけない。
J076	松野　太郎	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	日本における自然エネルギーへの転換に関して太陽光発電を増加させる技術政策面の努力がどうなっているのかよくわからない。また、原子力発電について産業界の必要論と社会全体の危険視との分裂が放置されたままなのが心配。
J077	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 7.食糧 9.社会、経済と環境	世界的に気候変動の重要性は理解が進み、改善の為の努力がなされているが、まだ不十分と思う。そのため、楽観できない。特にアメリカが問題で、今の政権が続く限り希望が持てない。
J079	海老瀬　潜一	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	自然災害の近年の増加を身近に感じた。
J080	千脇　秀樹	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	脱炭素社会への移行を進めない国、市民は将来の人間のことを考えているとは思えない。が、原発に回帰するのは人間の手に負えないエネルギーの復活に等しいと思う。
J082	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動	近年の地球温暖化は人為的なものと言われているが、長い歴史を振り返ると、気候は温暖期と寒冷期を繰り返しているため、現在の温暖化は周期的な変動の一環なのではないかと考えることもある。
J083	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	長期的な問題解決よりも目の前の問題を重視し易い傾向がある。又、世界的に意見の統一を図ることがかなり困難である。

Comments on Q2

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問2	ご意見
J085	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	わが国は、全般的に高温が続いたり、どしゃぶりの雨が続くなど異常気象が多いように感じる。これも気候変動ではないかと思われる。
J086	村野　健太郎	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	地球温暖化による巨大台風、集中豪雨は日本のような急峻な山脈をかかえる国にとっては大きな脅威。毎年人が亡くなる数はゼロにしたい。一方、人口減少社会になり、農地や森林が切り開かれる確率は低くなった。良いかどうかは不明だが、都市への集中（個人住宅が高層マンションに換わる）はエネルギー使用の効率化につながる。京都に住んでいるがバス路線の充実でマイカーの必要性を感じない。後はバスをハイブリッドバスか電気バスに変えれば大成功では。
J088	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	5.水資源	将来における水資源の不足を心配している。
J089	[-]	アジア	日本	企業	60代	6.人口	全ての問題の根源は、人口の問題である。人口の増加の抑制のみならず、適正規模への抑制が必要であるが、残念ながら人類は自らの意志で抑制できたことはない。（例外、中国？）
J090	岡村　順子	アジア	日本	地方自治体	50代	8.ライフスタイル	市民・消費者の環境志向性を、QOLを下げることなく向上させることが重要であり、地道な教育や経済的アプローチ（近年のナッジ的手法を含む）等あらゆる手法により、社会全体の環境意識を高め、行動に移していくことが重要だと考えます。
J091	中島　直彦	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染)	顕在化した問題に対しては対応可能だが、未知のもの、未解明の事象が存在することを前提に考えることが重要（例えば、フロンは無害とされていたが、後にオゾン層を破壊する原因物質と分かった、など）
J092	[-]	アジア	日本	ＮＧＯＮＰＯ	40代	6.人口 8.ライフスタイル	世界の人口増加、それに伴う消費エネルギーの増加についてすごく気になっているが、表立って人口増加の抑制について話す人がいない。気候変動や生物多様性は多くの所で取り組んでいるのに、人口問題はどう取り組むか。女性の教育向上は欠かせない。
J094	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 5.水資源 9.社会、経済と環境	地球の温暖化による気候の変動が海水温を上昇させ、生態系の変動や降水量の変動をもたらしている。洪水地域や渇水地域が人間生存に危機を与えている。
J096	清水　文雄	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	政治家の意識改革が何よりも重要。加えて世界の政治のリーダー（G7やG20)らが過去20年実質的な政策を進めていないことの認識とそれは何故かを分析する必要。
J097	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	異常気象の頻発など、明らかに気候変動の影響が大きくなっている中、社会の政策や国民の関心はむしろ遠のいているような印象を受け、危惧している。
J098	吉田　栄夫	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	”気候”という場合、どの位の時間的長さで考えるということがありますが、1年間の天候の推移をみても、最近のそれは、以前と変わったと多くの人が認識しておられるでしょう。現在の大気と海洋の環境は、高々1万年前以降のものです。その変化をとらえて、少しでもこれが保たれるようにと願っております。
J099	[-]	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境	気候変動は年を追って大きくなり、これによって生物圏の変化と国内の食糧生産が少なくなって、このアンバランスが世界の気候変動にも影響し、マイナス方向への国力を加速度的に進めている。
J100	後藤　隆雄	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 6.人口 8.ライフスタイル	・変わらなければならないライフスタイルが変わらない。 ・人口の都市集中化が日本でも海外でも止まらない。 ・古代都市の崩壊と同様に、大災害で崩壊か。
J101	高梨　秀一	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	近年の異常高温や突発的な豪雨は、これまでに経験が無く、想定していた気候変動の枠を大きく超えていると思う。適応の必要性が叫ばれているが、この様な事象にどこまで適応できるか不安である。
J102	阪口　功	アジア	日本	大学研究機関	40代		集合行為の問題をトランスナショナルに解決するのは困難であるため、啓発されたマーケット、金融の力が重要となる。
J103	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動 8.ライフスタイル	気候変動が「今そこにある危機」として捉えられていないため、個人レベルでの意識がなかなか変わらず、ライフスタイルの転換につながっていない。